

第四課

幼年期 嬰兒名簿及幼稚科

誕生より六歳まで

幼兒の心理的發育の二特質である好奇心と模倣に就ては既に述べた通りであるが、猶殘つて居る特質の一として、

三、想像力がある 幼い時は空想の時代である、小さい子は木切れを卷いたものが、美しい人形の代用となり、杖か立派な馬となつたりするのである、想像力は架空的である、子供はお伽話や幽霊の話がすきで、また妖怪や、幽霊がほんとに生きて居る様に思つて居るのである、即ち此心理が所謂子供が「嘘をつく」と云ふことに關係を持つてくるのである、即ち子供は想像力が強いので、嘘だか、ほんとだかわからなくなるのである。見たことや、仕た事の話がほんとの様に見え、又ほんとの様にそれを話

すのである、此種類の嘘はだん／＼判断が正確になると共に眞の方へ近づくのであるから、子供が、此種類の嘘を云つたからと云つて、罰しなごしては、いけない。能く注意さへすれば だん／＼かう云ふことは忘れてしまつて確實な云ひかたをする様になるのである。

三、道德的及び靈的發育

基督が、「汝等もし幼子の如くならずば天國に入ること能はず」と云はれた、その幼兒の性質とは何であるか。

一、信仰 子供の間は信賴の深いものである、両親や先生の言葉は疑はない、困難や危険は何とも思つて居らない。そこに誰か保護をして居るのではあるまいか、彼は人に頼ることを恥しく思つて居らない、お父さんに手を引かれて町へ連れて行つて貰ふことを嬉んで居る。

二、眞實 子供は束縛されず、飾らず、お上手に乗らず、考へたことをそのまま云ふ

のである。

三、我儘 欲しいと思つたものは貰はねばきかない、せがみ出したなら凡ての事を捨て、置いていも面倒を見て貰はねば、きかない。人様のことなどは何とも思つては居ない。欲しいと思つた蝶々がお隣の庭に飛んで行けば、己れもその後を追つかけて、お隣の花をだいなしにして仕舞ふがそんなことは夢中である。

此時代と次の時代は習慣の作成される時である、習慣は性格を造るものであるから此時代に自制心とか従順とか眞實とかの根本的徳律を教へ込んでおかねばならぬ。或學者の云つたことに「酒吞は學校へ行かぬ前に出來て居る」と、もしも子供が自制心を失へば斯くなるのは自然の勢である、それだから、此時代、祈禱とか、おとなしく教會に出席することとか、施をすることなどの習慣を養はなければならぬ。

(い) 初めの印象を強く與へよ。

(ろ) 繰返せ、繰返せ。

(は) 良き習慣は造るに易くして壞すに困難であることは、惡癖同様な事を記憶せよ。

此時代についた惡癖は二十一歳まで斷つことの出來ない鎖となるのである。

幼稚科教師の秘訣

一、男女を一組としてもよい、まだ性の區別はない。

二、新約より舊約を多く用ゆるがよい、舊約には想像の餘地が多く摸倣すべき豪傑が多い。

三、課業は短かくし、順序を常に變更し、ジツとしない子供は進行曲や、活氣のある歌ではづみをうまく操れ。

四、好奇心を利用して興味を起し、神秘的空氣により彼等を引付けよ。喻へば子供に見せんとする包みを解くことでも子供はもうそれに氣がひかれるものである、話を以つて教へよ。

五、具體的なれ 黑板の説明或は模型の如きものを用ゐて子供の感覺に訴へよ、然し色々な形の外に意味がよくわかつて居るか否かを試みよ。

六、此時代はよき收穫の種時期であることを記憶し、祈禱と忍耐を以つて種をまけ。

練習問題

幼年期の心理的發育の三特徴を云へ。
 子供の時代の想像に就て實例を挙げよ。
 これが所謂子供の嘘と如何なる關係ありや。
 道徳的及び靈的發育の三特質を挙げよ。
 子供は如何にして其信仰を示すか。
 子供は如何にして其眞摯を顯すか。
 如何にして子供の我儘に現はるや。
 習慣の作成に就て守るべき三法則を問ふ。
 何故新約より舊約が子供は好むや。

如何にして我々は課業の趣味を増すべきか。

黑板上の梗概

四	習慣
三	我儘
二	眞摯
一	信仰
三	道徳的及靈的發育
三	想像力
二	模倣
一	好奇心
二	心理的發育
	幼年期

第五課

少年期 尋常科及初等科

一六歳より十二歳まで一

「良き果の園を得んとせば苗を植ふよ」

一、生理的發育

一、此時代に於て生理的發育は徐々である。大きくはなるけれども、六歳前或は十歳後の様なことはない。八歳の頃脳は一杯に成長し、神経組織の受感性は之より發達するのである、又子供は益々またとない健康状態に進むのである。

二、子供は相變らずじつとして居らない、學校がすめばすぐ遊びに出る、食事に歸るのもいやな位で有る、然しもう靜かにせよと云はれると弟の様にもじくはしない、幼い頃の習性に益々巧みになる、此頃から學校で習字のお稽古をするものだから小さい筋肉が働作の上に一大進歩を示す。

二、社交性の發育

一、六歳で學校に出席する様になるので 社交の範圍が著しく廣くなる、彼の世界に先生も同級生で這入つてくる、もう彼は我儘な小暴王ではない、その世界に對する社交的關係の發芽が現れてくる。

二、獨立心の現出 女の子は一人で着物をきたい様になり、男の子はお父さんに手を引かれるのがいやに成る。發育上からは文明史上の獵師時代に相當するのである。

鬼ごっこをしてお友達を追ひかけたり、隠れんぼして、彼等の先祖である、野蠻時代の穴居人種が敵を追つかける時の様なことをして遊ぶのである。

三、此時代に兩性の差別がつくのである 男兒は女兒と遊んだり勉強することを一緒にせられるのを嫌ふ様になり、町では女の子をいぢめ、また女の子は女の子で、綽號を呼んで、之に應ずるのである。

四、此時代に子供は一團となつて遊ぶ そしてなんでもその中での一番豪いものにならうとして居る、競争心が發達して、三吉は三太郎を追ひ抜かうと騙けつこをする。勝ちたい計りに、はぢきをする、然し結黨的精神はまだ現れない。

五、切つても切れぬお友達 が出来る、然し氣が合ふからと云ふのでは無くて、近所だからと云つて親しくなるのである、近所であるとか、學校での席順が隣合せて

あるとか、近くで遊んで居るとか云ふことで知り合ひになれば、人種や教育や品性などは少しも頭におかずと親しくなる、然し此頃のなかまは後年一片の知人たるに止るものである。

三、心理的發育

一、記憶 此時代に記憶が著しく發達する、然しそれはなんでもこいで、善惡何れを問はず將來の準備として頭に貯蓄する、此頃の子供は蠟の様なものを受け取つて、大理石の様にして頭にしまひ込む、然し理性が未だ充分發達して居らないから此頃の記憶はあてにならぬ、肝心なことは忘れて譬喩だけはよく覚えて居る。

二、此記憶のよい時は我等が神の御言葉を子供の頭と胸に充たすに一番よい機會である イエスの御言葉、或は詩篇の數篇、また多少理解され得る單純な良い聖句を撰んで記憶すがよい。實に聖句は智識としては眞なるもの、感情には美なるもの意志には精氣潑洩たるものである、子供に之が日々の教訓となるならば、彼等の足元の燈

として、いつも運ばねばならぬものとなるのである。

三、子供は友人の眞似をする 三吉は三太郎の雪靴や車が欲しい、花ちゃんやんは愛ちゃんの様に髪を結つてもらつて、似よつた着物がきたい、いや、それ處ではない、言葉つきから、動作、習慣までが似てくる。

四 新しい讀書の趣味と謂ふものが現れてくる 此時期の終り頃には彼は手當り次第に耽讀をする、だから此時代に善い文學の趣味をつけねばならぬ、くだらない、人生を畫いて居る、三文小説などは讀まざる様にせねばならぬ、その變り、ラブラドルの醫師グレンフェルの様な宣教師の面白い有益な物語 (譯者云ふ、グレンフェル氏は今猶カナダの漁村に献身的なまた冒險的な傳道をせられつゝある救濟的傳道をせらるゝ有名な宣教師で、同氏のことを書いた『ラブラドルの醫者ルカ』と云ふ小説がある位である) 或はアメリカや英國の英雄の傳記を讀ますがよい、また小説より事實の物語を讀ますがよい、然しそれと共に子供に適する變化あるものや、冒險談を讀まざるければならない、またそれと同時に多

くの書物には間違つた人生觀があると云ふことを子供に示してやる必要がある。こんな謬見を離れて善い方に導かねばならぬ。

五、子供の理想 今や家庭を離れて英雄崇拜になるのである、もう彼は銘々のお父様のやうにお醫者様とか、運轉手とか、氷賣とかになりたとは思つて居る、彼は東郷大將の様に艦隊を司令したいと思つて居る、それだけでなく馬賊の大將位にはなりたと思つて居る、だから、教師は此時代に聖書の大人物を以つて彼等に善き教訓を與へるには絶好の機會なのである。

練習問題

此時代に於ける生理的發育に關して少なくとも三つの事實を挙げよ。
此時代の活動力如何。
如何に兒童の社交性は擴めらるゝや。
獨立心は如何なる方面に現はるゝ。
此時代の兩性の關係を問ふ。

此時代の記憶の特質如何。

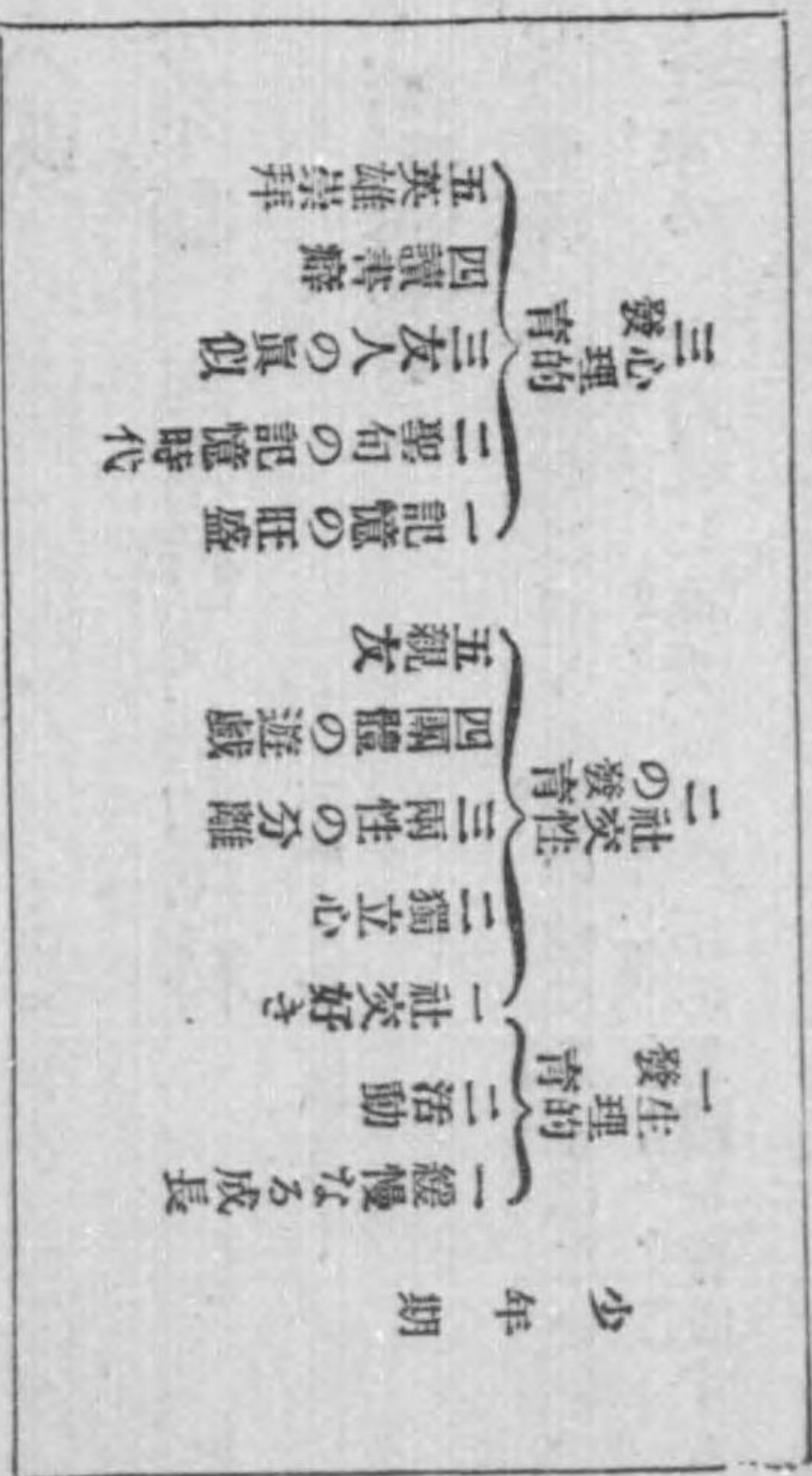
記憶は聖書の教授に如何に利用すべきか。

子供の讀書癖は如何に利用すべきか。

英雄に關する讀書は子供の素行に如何なる影響を與ふるか。

之を如何に利用すべきか。

黑板上の梗概



第六課

少年期 尋常科及び初等科

一六歳より十二歳まで一

四、道徳的發育

一、子供の良心の覺醒 道徳觀はつゝと後の様に鋭くはないが、此時代に善惡の區別の感は餘程増して來る、此時代に高貴なる生活の習慣を養成する様に獎勵せねばならぬ。

二、彼は現在に生きて居る 子供が善い事を仕様とする動機があるなら、それは今のことに何か關係があるからで、その後がどうならうなどは餘り深くは考へては居ない、だから此場合よく、現在の利害特質に就て、早やまり過ぎてはならぬとよく云な聞かさなければならぬ。

三、自我の發達 彼はなんでも自分の物にしたいのである、ボチも三毛も、印紙で

ち鳥でも玉子でも何でも欲しがるのでよくわかる、然し實云へば、ボチや三毛を可愛がつてゐる中に彼の愛情が適度に醇化して他愛心が徐々と發達するのである、彼はまだ、他人につくすことが眞の偉大であると云ふことを知らない。

五、心靈的發育

一、基督に對する決心 は此頃にせられるけれども深き情感より來ることは稀である、基督敎信者の家庭に育つた者は自然幼い時のことを思ひ出して神を愛し、信仰的經驗を深くするのである。

二、基督敎的生活の習性 が形造られるのは此時代である、此時代に子供は祈禱すること、聖書を讀むこと、神は近く在して愛して下さると考へること、又イエスを愛すべきことを務める様に勵まされねばならぬ。

三、基督は子供の目に英雄として映る 嬰兒の時のイエス様のお話はもう注意を引かない、兩替屋を追ひ出し、沈黙を以つて、敵と應對せられた英雄を讚美するのであ

る。

四、基督教的生活の英雄的方面が彼を動かす 聖書の中の高尚な傳記などを彼に教へ、基督教的生活は英雄的行動を日常生活に要求すると云ふことを教へるがよい。

五、從順なるべきことを教ふるは何より 此時代の子供に大切なことである、彼は理解する前に感じ、知る前に愛するものである。

尋常科及初等科教授の秘訣

- 一、年齢によつて子供を小さい組に別けて。
- 二、尋常科では男女混合でよいが、初等科では別けよ。
- 三、初等科は尋常科より時間を長く教へよ。
- 四、尋常科には神の愛、恵、また人を愛すべきこと等に關する聖書を教へ、初等科には聖書の大人物、外國傳道大人物の傳記、聖書歴史、聖書地理を教へよ。

五、生徒に教授用の標本、カード、參考品を集めすがよい。

六、日曜學校の圖書室に注意せよ、此時代の子供に適當なまた望に添ふ書物があるか無いかを注意せよ。

七、子供に基督教的生活の如何にも勝れて居ることを教へよ。

練習問題

此時代の兒童に如何なる動機が最も多きや。

如何に子供の利己心が現はるや。

此時代に基督の爲めに決心する者の特徴は何ぞ。

少年に基督の性格の最も注意せらるゝ點は何ぞ。

基督教的生活の如何なる方面が最も深く彼に印象せらるるや。

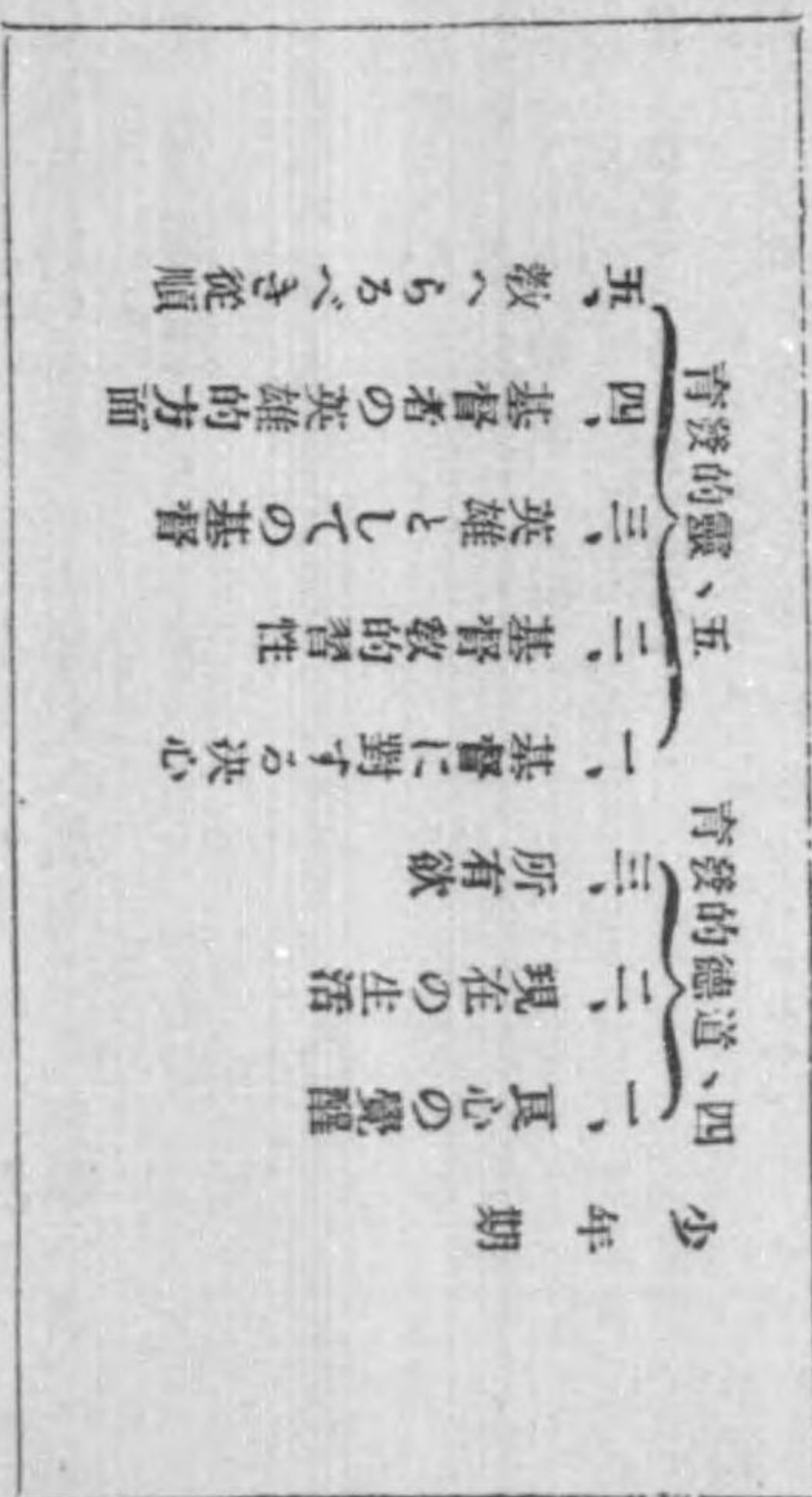
教理より從順を教ふるが好果あると云ふ理由如何。

尋常科及初等科教師の心懸く可き點少なくとも六ヶ條を擧げよ。

尋常科には何を教ふるが最もよきや。

初等科には如何なることを教ふべきか。
基督教信者の生活の如何なる方面が高調せらる可きか。

黑板の梗概



第七課

青年前期 中等科

— 十二歳より十六歳まで —

今や子供は少年期を過ぎて一個の男子としての入口に立つて居るのである、併し未だ這入つてしまつたわけではない、此成熟期の玄關は則ち青年前期である。

一、著しき生理的發育

一、形態 少年は丈が高くなりひよろ／＼高くなつてくる、そして始めて長いズボンをはくのである、然しまだ重くはならない、此發育は女子が男子より早い。男子は長くつやく、女子は十三歳にして同年の男子より丈が高い、女子はズットませてをる。

二、力 青年の心臓は著しく大きくなつて鼓動が早くなる、それで、彼は聲が大きくなり騒しくなる、又力が出来、戸をビシャンとしめ、口笛を吹き、疲れてしまふまでぞめく、神經質のお母さんは堪へ切れなくなつて叱りつける、そして「なせ三吉は紳士らしく静かにして居れないだらう」とお疑ひなさる、忍耐はまだ發育しない。すぐ湧いた血がさめてしまふ。

三、新しい力 此時代は少年が若い男や年頃の娘になる時で、新しい力が發達する。然し生理的にまだ型が定らないから非常に危険である、此變り目は聲の變るのでわかる。

二、新しい社交性の發育

わからずやの權太さんはもう、人類が社會を組織して生存し始めると云ふ人種的生活時代に進化するのである、彼は此種の生活の特權と享樂を思ふ、そして彼自身の存在が認められる一種の社交生活に這入りたいのである。之は種々な方面に現れてくる。

一、異性の引力 此頃は不作法な時代で、手足が馬鹿に大きく見える時であるが男の子も女の子も一緒に遊びたいのである、つまり異性の引力が出來たのである、女の子は益々おめかしをし、男の子はまた女の子の前で身姿を繕ふ。昔は髪を分けることを馬鹿に悪く云つてゐた三吉も、今は鏡の前でコテ〜やる、話の中で一番面白い

のは異性のことである。

二、遊戯 此頃に好く遊戯は技巧と偶然とが主になつた遊戯である。団体的精神はどの遊戯にも含まれて居る、ベースボール、バスケットボール、フットボールの組織され、會員は制服をつけたり、色を撰定したり、呐喊や、遊戯の規則を面白がる様になるのである、そして組の成功の爲めには喜んで個人が犠牲になるのである。

三、情緒 感情の振子が極端より極端に行く此時代の青年は實に不安定で、云ふことをきかない、今日或娘はバツトして、希望を持ち、幸福で先生を愛して居るかと思ふと、明日はむつとして滅入つてしまひ、不快氣に先生を恨んで居る、男の子の競争心の強いことは喧嘩計りでなく、口論にも現れてくる、此感情はすぐ現れて一寸と治らない、それは女の子が顔を垂れたり、もじ〜したり、ヒステリーのなところ、男の子が、汽車や電車や大勢の集つた席上で、とツツけもない大きな聲を出したり、足ぶみしたりすることによくわかる。

三、心理的發育

此時代は外の時代と較べて心理的發育は遅いけれども、發育することは勿論中止することなく進むのである。

一、模倣 此頃青年は英雄の勝れたる行動を見習ひ、その偉勳を慕つて、ワシントンやリンコルンを愛するのである。又彼は同じ意味でデッドグールド・デイク(チゴマの様な男か?譯者)を慕ふのである。

二、想像力 彼の想像力は理想を創造し、夢幻界に生息して、此世と違つた、もし面白世界に住んで居るのである、若しも、此傾向をよく注意しないと意志が弱くなつて、現實生活に満足しない様になつてしまふ、彼は小事に忠なることを嘲り、大なる機會を待つて居るのである、男の子は三文小説に想像力を満足させ、女の子は空想小説に悦に入るのである、又折々家庭に居つて頭も心も飢えて來るので、男の子は鳥の様に好きな飼食をあさらうと飛び出すのである、之が即ち不良少年となり、家出

者となるのである。

三、理性 最も高尚な機能が活動し始める。三吉はいつも「なぜ?」とか「どうして?」とか計り云つて覺えやうとして居る、然し記憶はよくない。

四、美の憧憬 此時代に始めて美の憧憬が起る。娘は自ら着物の綺柄やリボンを選び、男の子はネクタイを撰ぶのである。

教師への注意

- 一、此の年頃の子供は日曜學校の各種な催に無理に勧めぬがよい。
- 二、自治的の一團を組織して一週間の中に一度集會するがよい。
- 三、生徒に一週間のうちに仕上げる様な宿題を出すがい、然しまた憐憫、愛、忍耐の様な感情は覺醒された許りで實行に現はさなければ、品性を弱めるものであることを知らねばならぬ。

四、不良少年を家につれ歸るのは同情と精神的營養である、決して叱責で無い。

五、精力の餘つたものには歌はせよ、騒ぎ立つた大勢の子供を鎮めるには「見よや十字の旗高し」讚美歌二七三と「悪魔を亡ぼす神の御子」讚美歌二編二二八「主の旗をおしたて、」ゆきびらの様な讚美歌程よいものはないのである。

練習問題

青年期とは何を意味するか其年齢の期間を云へ。

六七歳の頃と此頃との生理的發育を比較せよ。

精力を増大せしむる原因は何ぞ。

此精力は如何なる方面に現はるゝや。

此時期の異性に對する態度如何。

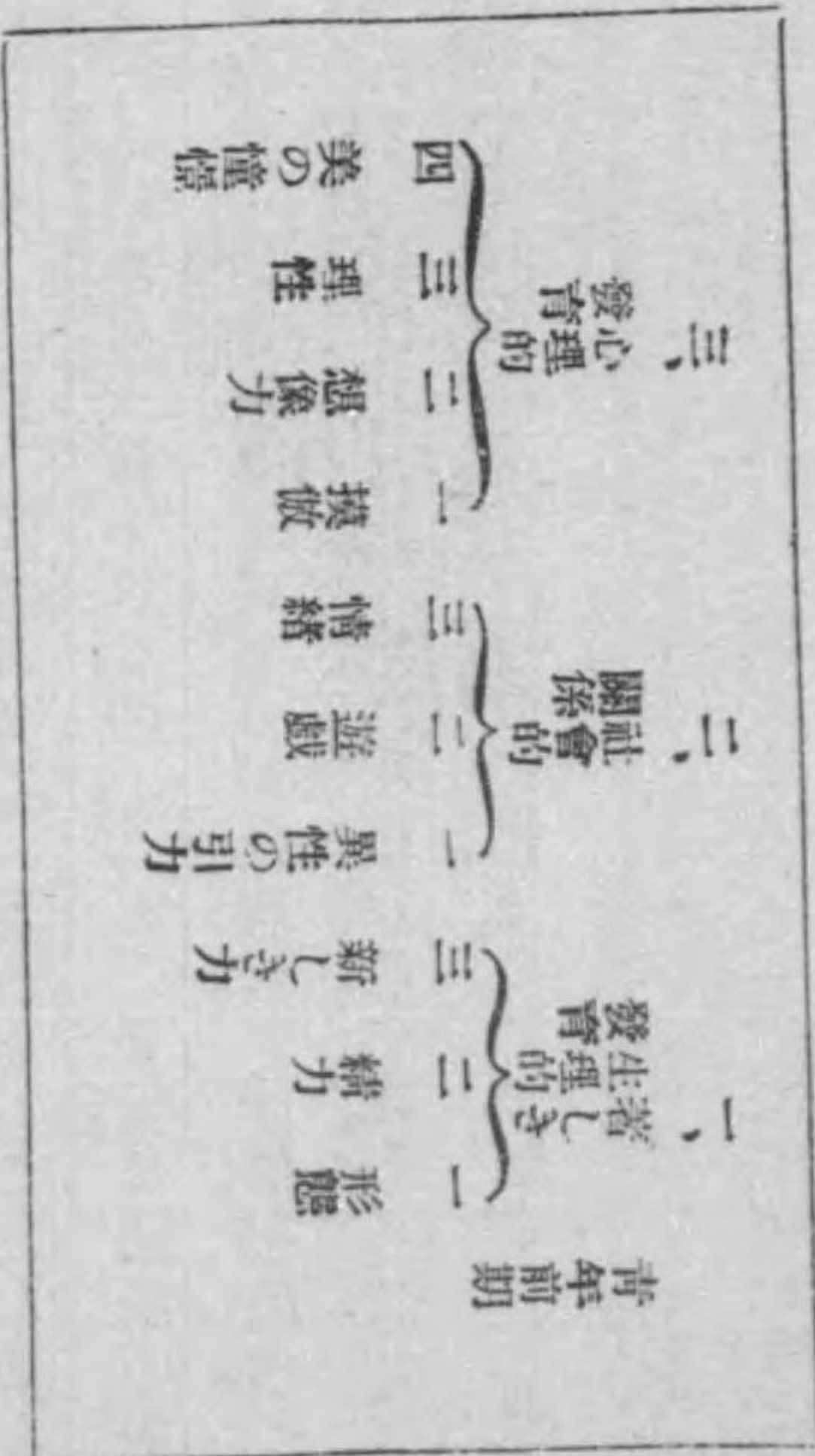
此時代の遊戯の特質を云へ。

如何なる方面に摸倣及想像力は働くか。

此時代の新しい特質を云へ。

教師の注意すべき四點を問ふ。

黑板上の梗概



第八課

青年前期 中等科

— 十二歳より十六歳まで —

此時代の生理的、心理的、社會的方面の發育に關しては既に研究した、それで今こ

れから道徳的及靈的方面を研究しやう。

四、道徳的發育

此時代の自我心及情緒並に精力に關してはその道徳的生活によく現れて居る。

一、自信 新しき力の發達は子供に自分と自分の能力に對して著しき自信を與へるのである、之は何んでも知つた振りをする態度に現れる、こんな場合お父様の忠告は耳には這入らないが、大に鼻柱を折られるのである、子供は議論の爲めに議論をする、決して負けて居らない、討論好きではあるが此時代に子供を公衆の注意を引く様な處へ押し出すのは賢い行き方ではない、之は唯自尊心を高めるばかりである、此頃子供の觀念は大世界に向つて、種々な企や空想に惱まされて居る、それで、彼はその企を決心せんが爲めに、随分金を盗み出す様なこともある。

二、激情 感情は非常に激烈になり、制御することが出来ない時は子供の未來を全くだいなしにしてしまふことがある、だから或る情緒は押壓し、或ものは中和し、或ものは獎勵せねばならぬ、罪に向つては憎惡の觀念、神と人とに向つては愛を燃やすことを勵まさなければならぬ、此時代は正義の觀念が鋭いから罰するに際しても特別の注意を拂はなければならぬ、彼の鋭い情緒は、無實の惡口或は賞讃の不足によつて害せられる情緒は覺醒された場合行動に現はさなければならぬ、そうしなければ品性を害ふ、もし異教徒の子供に向つて同情心が起つたならばすぐ何か彼等に向つてさす機會を與へるがよい。

三、秘密主義 子供の時代の開け放ちの所は無くなり、ますます外交的となり秘密をつゝむ様になる、彼は思つた丈の事を先生に云はない、教壇から質問されることは少さい時の様に思ふだけを快活に答へない、太郎はもう寶箱に錠が欲しいのである、そしてお花はまた自分のお室が一つ欲しいのである。

四、精力 遊ぶにしても働くにしても上手になり忍耐が出來、辛捧が出來、移り氣な落付のない我儘な所がなくなる。

五、靈的發育

一、基督に對する決心は 此頃もう自然的に現れる、基督教信者の多くは此頃の終りに大なる決心をしたものである、此頃に決心しない者は僅かしか基督の爲めに盡さない、だから心を盡して此頃の青年には基督の爲めに身を捧ぐる様に勧めねばならぬ、記憶すべきことは或子供は悔改の經驗を明確に意識するか又夜が晝に繼ぐ如く、知らぬ間になつて居る小供も多くある、外の人が或特殊な經驗をしたからと云つて、それをやり直さなければならぬと云ふことはない。

二、子供は實行的 活動的の宗教を要するのである、口には云はなくとも、手では出来る、此頃の熱心と精力は随分役にも立てば基督の證をもするのである。

三、此頃の青年には 基督の男らしいところ、勇氣あるところ、その聖きところが理想である、基督はそのした事によつて愛せられるのである、教訓はまだわからない、子供は先生が絶對的に眞面目で又言行一致の人であつて欲しいのである。

四、此時代は疑惑の時代である この頃は考へる時であるから、男の子や女の子の煩悶を捨て、置いてはならない、また知つて置かねばならぬことは、理性が納得して信仰が起ることである。

教師への注意

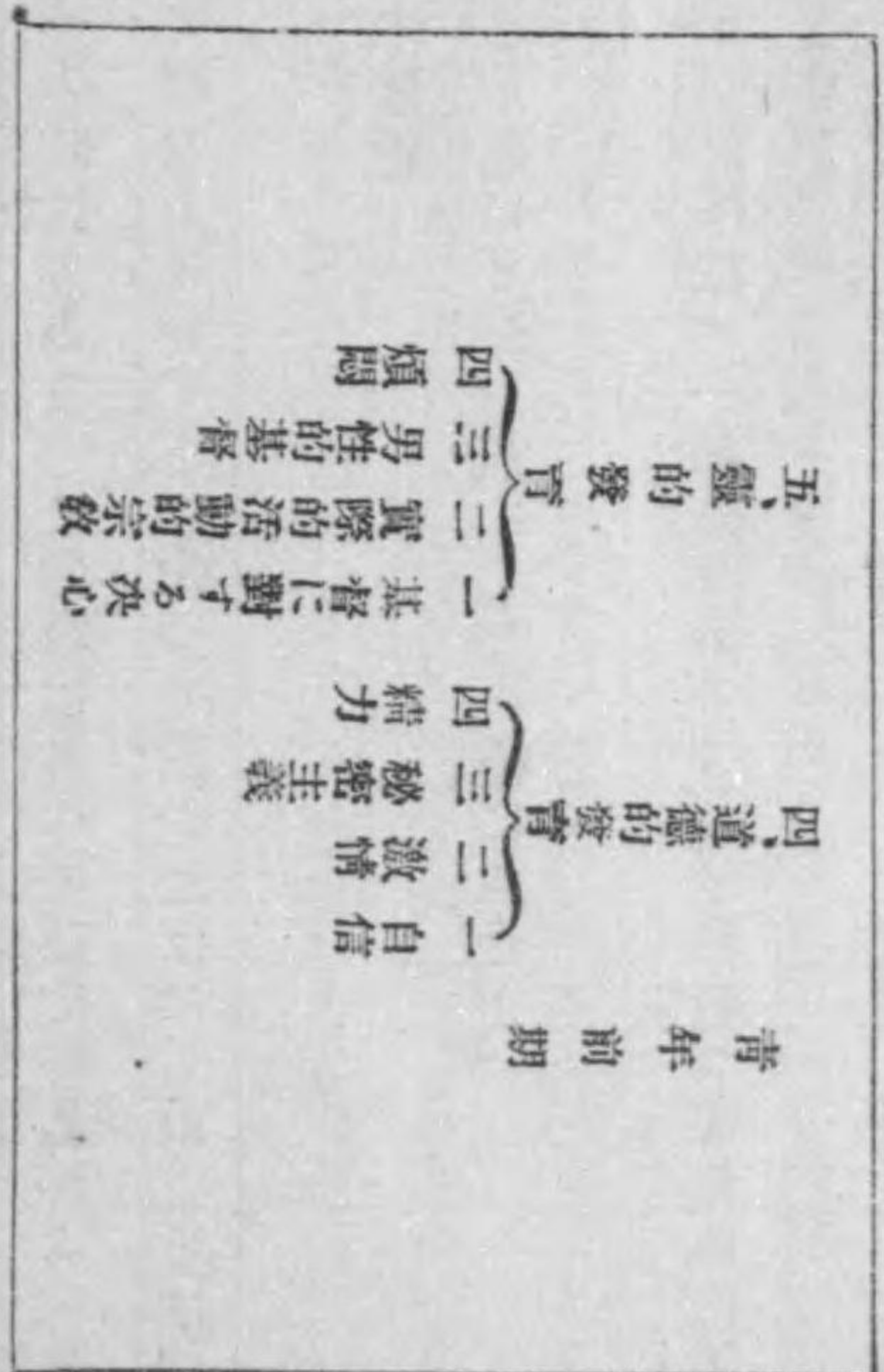
- 一、子供に評判とか悪口とかを氣にしない様にさせよ。
- 二、叱るより同情せよ。
- 三、子供に自分が日曜學校の一部分であることを自覺さすために工夫せよ。
- 四、何か子供にさせよ。
- 五、先生と生徒の親睦はお稽古より肝心である、先生の信仰は一番よい授業である。

練習問題

此時期の道徳的發育の四特徴を問ふ。
 此時代の自尊心は如何に現れる、や。
 如何に教師は男の子女の子の激情を取り扱ふ可きか。
 秘密主義は如何に現れる、や。

精力を如何に利用すべきか。
 此時代に於ける靈的發育の四特徴を云ふ。
 何故此頃基督に向つて決心すべきを勧め可きか。
 基督の如何なる方面が彼等を動かすや。
 教師は如何に男女子の煩悶を取扱ふ可きか。
 青年前期を教ふる際注意すべき五點を擧げよ。

黑板上の梗概



第九課

青年後期 高等科及大人

一十六歳より二十四歳まで

「人間は神の傑作である」

「併し」「福音書の人」は凡てのもの、中心であらねばならぬ」

一、生理的及社交的發育

もう青年は丈が延び切つて、これから重さと力が殖えてくるのである、彼は體育を重じ、政治問題に興味を持ち、色々な機關と連絡をとりたい様になる、彼は大學とか社交團體の記事をつけたり、壯年自治聖書團のボタンをつけて頗る得意である。

二、智識的發育

一、この頃は特に智識的時代と云ふ可き時で青年は單調なプログラムに疲れ、何か生徒の研究

新しい事がやりたいのである、それで、彼は頓狂な事や、流行を追ふて極端なことをやりたいのである、それで此時代に多くのものが面白くないからと云つて日曜學校に出席することを中止する。

二、出席は自由 青年は面白くない事でも、先々に立つからと云つて出てくるが、その動機は外部的か、内部的かわからないが、兎に角自分の天職が那邊に存するか、或はまた彼の性格が、その方面に發達して行くからと云つて注意を向けてくるのである。

三、記憶は組織的になる 理解と聯想とが互に助け合ふ様になつてもう何でも頭に入れる様なことはない、聖句を覚えることは餘程困難になる。

四、想像力は建設的となる 青年は機械を發明し、小説や繪畫の構圖を考へ出す 遊ぶににしても働くにしても、組立のむづかしいのや問題の六ヶ敷いものを面白がる、判断は反省の不足や觀察の間違の爲めに、周章過ぎたり、不正確なことがある勝ちである。

る。

五、理性は著しく發達し かまつてくれないからと云つて泣く嬰兒の時から理性のほのめきはあが實際著しく發達するは一番遅れてである。

三、道徳的發育

一、感情は注意深く訓練せねばならぬ それは外でもない、品行の根本は感情であるからである。例へば憫みの情が有つて初めて慈善となるからである。

二、尋常科の先生に注意したことをも一度注意せよ 善良なる習慣は形造るに易く破るに當つては惡癖を破ると同じく頗る困難であるから特別に注意せねばならないのである。多くの犯罪は大抵青年期の惡癖の結果と云つても善いのである。

四、靈的發育

一、信仰は確固となる 忍耐と歡喜と忠實とを以て聖書を研究することにより、信仰は理性の上に確固として据ゑられる。

二、基督の愛を感じる 基督はもう實驗上益々貴き友となり、基督の犠牲と受難はその心を強く刺激し、魂を彼に結びつけしめる。

三、基督の爲めに喜んで働くとき 基督信者の奉仕の偉大なることを悟り、主の國を擴張する事業を高尙なるものとして喜んでむかへるのである。

教師への注意

一、壯年自治聖書團を組織せねばならぬ。

二、男女はませてもよい。けれども、出来るだけわけたがよい。

三、高等科には梗概と地圖を製作させて、彼等の建設的想像力を利用せよ。

四、生徒に解決さす様なまた討論さす様な問題を出すなら生徒は非常に喜ぶ。

五、質問には出来るだけ智識の寶庫をつくして親切にまた丁寧に応へよ。

六、家庭國家又個人の現狀に就て宗教的教訓を與へよ。青年に社會と國家の大問題に對する責任を自覺せしめよ。

練習問題

此時代の生理狀態は如何。

社交性發育の特徴は何ぞ。

此頃の智的發育の四特徴を云へ。

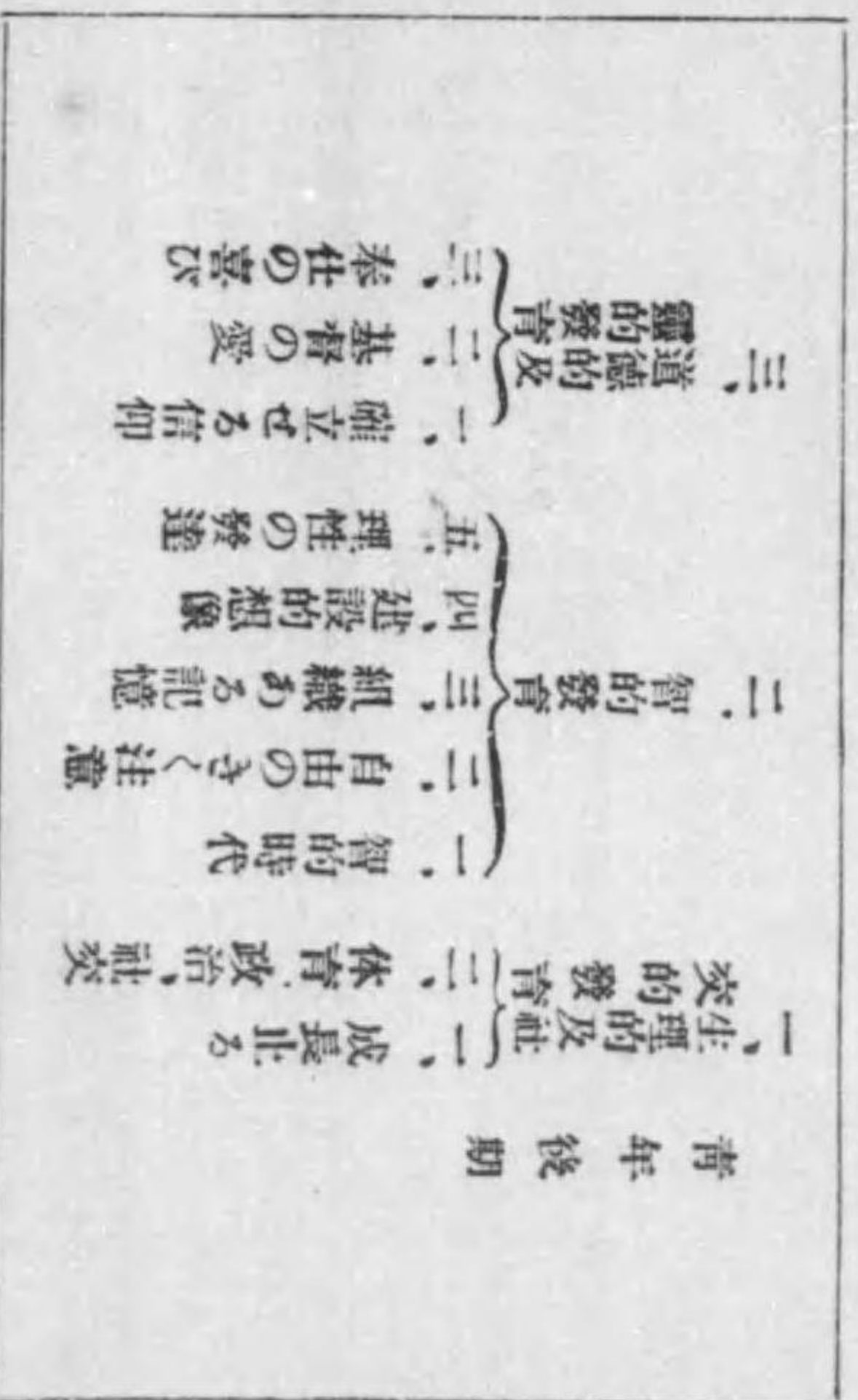
此時代と幼年期の注意とに如何なる相違ありや。

想像は如何なる有様にて現はるや。

此時代に他の如何なる機能が顯著となるや。

習慣の作成には如何なる注意を特に用ひべきや。

此時代の體的發育に就て三事項をあげよ。教師の注意すべきことを少なくとも五つ云へ。



第十課

課業を受けんごする兒童

兒童を愈々課業に取りかゝらすに當つて、課業に氣を向けさすには四つの基本的法

則を守らねばならぬ。

一、注意

例へば、課業中、兒童が、懷から小鳥を出したとする、その課業はもう駄目である、徳利を並べて説教して居る様なものだ、いくらこちらが一生懸命にやつてももう耳には這入らない、また少しも注意して居らないのだから這入らう筈が無い、先生より豪いものが其日は注意を集めて居るのだ。

注意しなかつた稽古が、無効だと知つた以上、教師は以下の三つの中の一つをせねばならぬ。

- 一、課業を中止して失敗を承認するか。
- 二、再び注意を集める爲めに面白い事をするか。
- 三、課業を面白くして生徒が喜んで惡戯を中止し、教師の方に振り向く様にさすかである。然し之は中々熟練して居らねば出来ぬ。

注意には、喜んでする時と、いや、いや、いやにすることなしにする時と、進んでする時と、迫られてする時とある。或ものは好んで注意し、或ものは止むを得ず注意する。児童はいや／＼注意する。そして面白いものだけに注意する。だから、長時間の注意を迫ることは出来ない。故に授業は短く變化ある様にせねばならぬ。實に不注意は、意識を統一する力が無くなつたと云ふ者である。

注意は授業を受ける第一の要素である。

二、興味

子供に注意を迫るわけにはゆかぬから、子供の方から注意さすより仕方がない。子供は面白いお伽噺ならば一時間でもちつとして聞いて居るが、算術のお稽古になると、十分間もちつとして居ることの出来ないのは、何故であらう。

遊戯的分子 子供は遊びに疲れると云ふことはないのである。故に教授する場合は合にお話を澤山入れたたり、遊戯を挿んだりすれば興に乗つてくる。だから、教師が、

いやな智識と云ふ丸薬を子供に飲ます場合に、子供の好きなお砂糖にまぶつて飲ますが一番賢いのである。老練な先生は、基督を説明するのも、赤ん坊には、赤ん坊として、十二歳前後の子供には豪傑として、十八歳前後の青年には、愛に富める友として、又教師として、壯年には、人類の救主として現はすことをするのである。興味は注意を作る。だからもし子供の注意を得んとするならば、子供の興味を引かねばならない。

三、接觸點

一、新しい智識は古いことに結びつけねばならぬ 古い神話に、地球は頑丈な人の背に載つかつて居つて、その人はまた象の背に乗つかつて居る。そしてその象がまた四本足で立つて居る大きな龜の上に乗つかつて居ると云ふのがあるが。

「じゃ、あの龜は何の上に乗つかつて居るの？」

と聞かれると、もう今度は答へることが出来ない。それで、つまり此話は、土臺のな

い話だと云ふので、つまらぬものと看做される。

之と同じで、何か新しい事が頭に這入つてくる場合には之を結びつける何か確固した土臺があるところへ持つて行く様にせねばならぬ。さうしなければ、それは意識外にすぐ消え去つてしまふ。で、古い知識で結びつけないで新しい知識をつぎ込むは、調度、篩に水を盛る様なものである。針金の上に露位は残るだらうが、それは何の役にも立たぬ。で、透明と云ふ觀念を教へるにしても硝子と云ふ觀念で説明しなければ、それは子供に何のことだかわからないのである。

二、教ふる事柄を兒童の經驗に結びつけねばならぬ。即ち新しい知識は舊い知識の上に乗せられねばならぬ。子供は自分の經驗に當らないやうなことは、悟り得ない。イエスの愛と云つても、自分を可愛がつて下さるお父様やお母様の愛を見て始めて解ると云ふ様なことで、草さへ知らない子供に、谷の百合を説明して見たつて何のやくにもたぬ。イエスは古いもの、上に新しき智識を築かれた。漁師を弟子とせら

れるに際しても「之から人間を漁る者にしてやらう」と仰せられた。彼等は、之を自分の經驗に照してみても、何のことだかよくわかつた。基督はまた百姓には百姓にわかる様な種蒔のお話をせられた。

四、言語

むづかしい言語は、思想の鎖を切るから、極く單純な言葉で話をしなければならぬ。「かみさまは軒の小雀まで」と子供は唱ふが、之は子供には言葉もよくわかり、軒先の雀のこともよく知つて居るのでさう唱へたものである。基督は「隣」と云ふことを説明せられるに、まづ、話をなされて其意味を説明して置かれて、それから「隣」と云ふ言葉の意味をわかる様にお説きなされたのである。愛とか、家庭とか、母とか云ふ言葉が矢張りさうである、皆我々の經驗から割出されて初めて意味が深くなるのである。

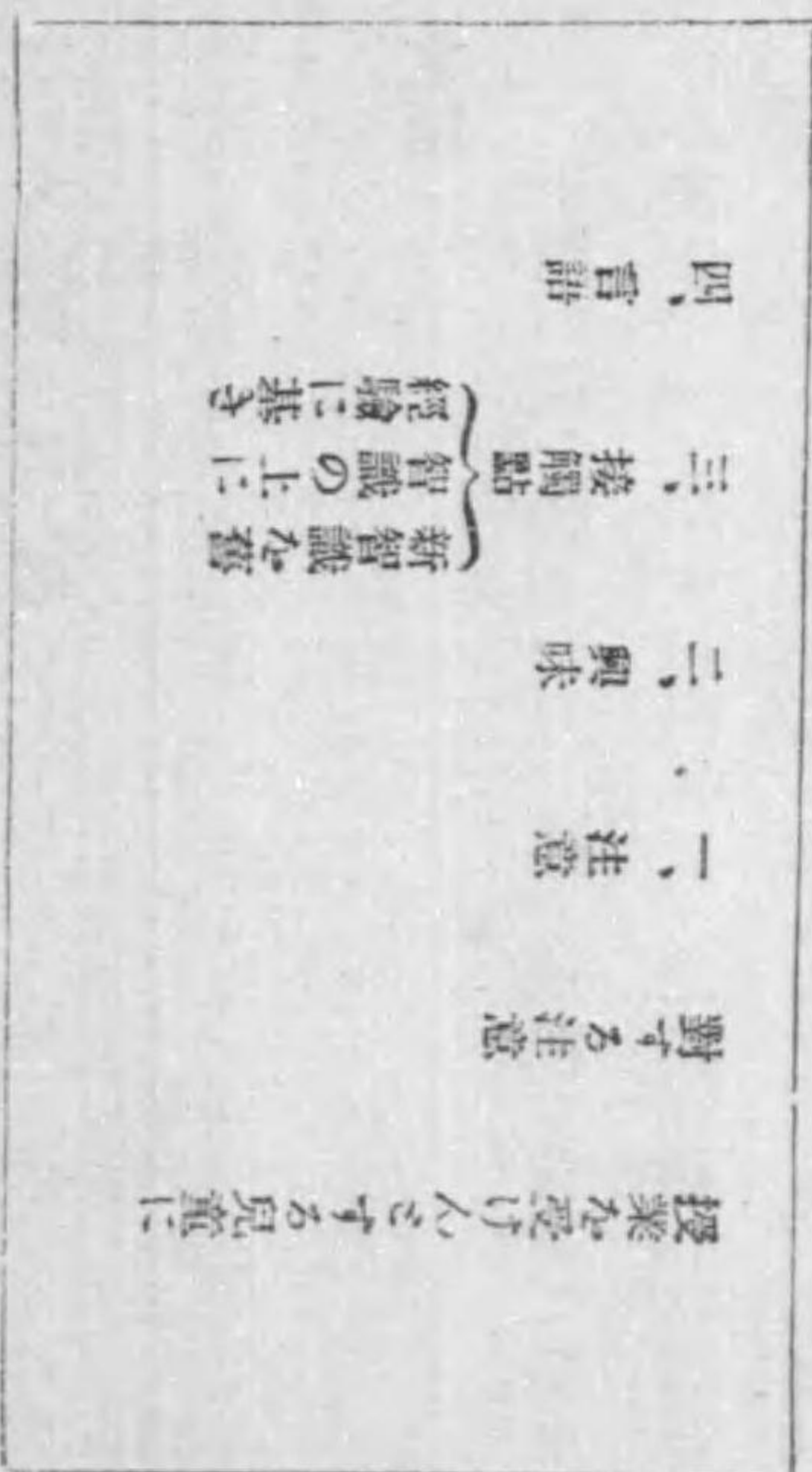
練習問題

注意の必要を述べよ。

生徒の研究

如何に注意を凝集せしむべきか。
 進んでする注意と餘儀なくする注意との差を問ふ。
 兒童の興味は如何にして作る可きか？ 接觸點とは何を意味するか。
 イエスが此教授上の法則を如何に使用し給ひしかを示せ。
 如何なる言語を使用すべきか？ その理由。
 イエスは如何にして言葉の意味を明瞭にせられしかか。

黑板上の梗概



第五編 教師の研究

第一課

教師の教師

教師は聖書に通じ生徒をよく理解せねばならぬは勿論のことであるが、こればかりではまだ足りない。効果ある教授をせんとするには教師の教師でいらしやるかたの方法通りにせねばならぬ。即ちイエスの教へられた通りに教へるならば、それは必ず成功である。

一、イエスは問題をよく理解して居られた。イエスは外の人の知らない真理を知つて居られた、彼は聖書に精通して居られた、又使命を感じて居られたから、語る権利も持つて居られた。「我を父とは一也」約十三「我を見しものは父を見し也」約十四「我によらざれば父に行くこと能はず」約十四と云はれても此の疑はしい處が無かつたの

である。

二、イエスは彼の生徒を知つて居られた。彼は生徒の経験によつて教へられた、農夫には種蒔と葡萄園の話、羊飼には迷へる羊について、ルカ一五二七 寡婦には花嫁と燭の話、せられたルカ一五八二〇。こんな適切な例でイエスは最も大切な真理を教へられたのである。

三、イエスは生徒の良い處を認めて居られた。ナタナエルの近づくを御覽なされては「見よ、イスラエルの中の罪なき人を」と云れたこともある。無論ナタナエルに欠點が無かつたわけではあるまい。然し、イエスは彼の良い方を御覽になつて、同情と賞讃を惜みなさなかつたのである。こうして彼はナタナエルに近づき給ひ、遂にナタナエルはイエスの弟子になつたのである。

四、イエスの教は單純であつた。然し意味は深かつた、その教は多くは物語體であつた、聖書の眞理を解説くにあたつて、常に日用の出來事をもつてせられた、古い上

着に繼を當て、居る女、マタイ九十六 町に遊んで居る子供、マタイ十一十六 畑で寶を探して居る男、マタイ十三四 其外いろんな譬喩によつて、彼は面白く容易に解る様に教へられた。

五、イエスは時と場所によつて、方法を變へられた。泉の傍ではサマリアの女に馴れなれしく語られ、その折につれて大なる眞理を教へられた。安息日に會堂に集つて居る禮拜者には説教體でもつて、聖書を解釋せられた。弟子と共に道を行き、若くは彼等と共に食事せられた場合には、はつきりわかる様に質問體を以つて彼等を教へ給ふた。

六、イエスは自らの人格を以つて教へ給ふた。彼の教授法より大切なことは、彼の生涯を通しての感化である。どうして無學な氣質の變つた十二人のものが日々彼に従ふことを心掛たか？ 決して地上の利得の爲ではなかつた。「一人の子は枕する處なし」とイエスが云はれた處を見てもわかる。然らば何の爲めであつたか？ イエスは彼等の心を、親切と善行と度量によつて引きつけ給ふたのである。イエスは寡婦の銀一枚に氣をとめ、マリアの赤心よりの捧げもの乳香の一瓶を嘉納し給はなかつたらうか？

主は愛の最も要求されて居る者を愛し、常に同情ある友、凡ての人の爲めには己を忘れ給ふたのである。この勝れたる教師の上の教師の御人格こそ我等がいつも學ばなくてはならぬものである。

練習問題

彼の教授を効果あらしむ爲めに教師は何をなすべきか。

イエスは如何にしてその問題に關する善習識を示されしや。

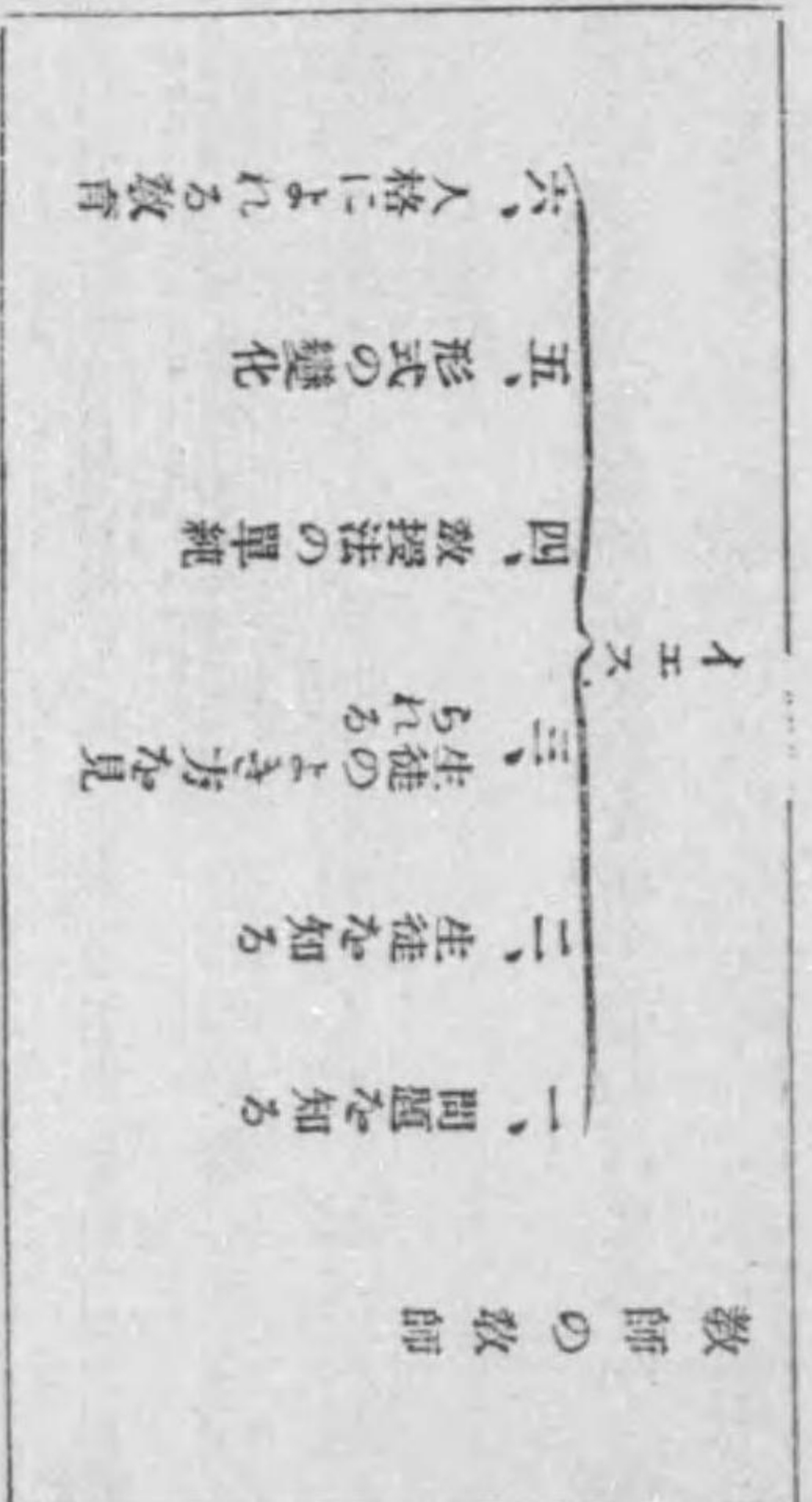
如何にイエスは生徒の要求に従つて教授をせられたか。

イエスが如何に生徒のよき方面を見られたかに就て述べよ。

イエスは如何にして彼の授業を明晰にせられしが。

イエスが場合により教授法を變更せられし三例をあげよ。

彼の人格はその事業に如何なる効果ありしや。



黒板上の風貌

第二課

教師と教科書

主任教師と密接な關係を保たん爲めに、日曜學校教師は、頭にも胸にも神の御言葉を満して居らねばならない。

一、彼は己の靈的生命を充實する爲めに聖書を研究せねばならぬ

靈的事業である。之に成功せんとするものは靈的生命を以つて居らねばならぬ。之は御言葉を通じて神と交ることのみによつて得られるのである。だから忠實な教師はサムエルの様に「主よ語り給へ汝の僕聞く」と云ふ様な態度を取らねばならぬ。

神に話すより神に聞くのが肝要である。あの多事多端なる日にエマオに旅してゐた弟子達は傍に歩み給ふ主に語つたことは極く僅かであつた。唯その缺乏を訴へるに止つたのである。そして彼等はイエスが彼等の爲めに聖書を解かれるのを聞いてゐたのである。彼等は互に顔を見合せて云つたことである、主が彼等を離れ給ふた時に、「途にて彼が、我等に聖書を解きし時、我等の心が燃えたではないか」と。かく御言葉を味ふて神を待つことにのみよつて、教師は、彼の最も必要なる準備をなし得るのである。

二、教師は生徒の必要を充す爲めに聖書を研究せねばならぬ 御言葉を味はつて居る時に、彼は教場の人々のことを考へて、あの生徒にはこの教訓がよいと思案しつゝ、讀むことがあらう。又屢々「ア、主よ、吾が眼を開き、我に教ふことを許し給ふ者に與へんとする御言葉を示し給へ」との祈も出て來やう。さて、聖書を役に立つ様に使ふためにはどうしても組織的に研究せねばならぬ。こゝに聖書研究の助けとなる四つの方法がある。

一、聖書をつゞけて讀むこと 創世紀から始めて黙示録まで、ぶツ通しに。この讀方は御言葉の凡ての處を通讀するから、聖書全體が頭に這入るのである。かの有名な信仰の人のジョウヂミラー（世界最大の孤兒院創設者、譯者）は聖書を百度讀み通したさうである、そしてその度毎に一層趣味を増したと云ふ。讀む時にはよく讀んで教訓を一人人生に當て箝めなければならぬ。

二、聖書を或論旨の下に研究すること 引照付の聖書とコンコーダンス若くは教科書を用ゐて或題の下に聖句を集めて研究せねばならぬ。そして聖句と聖句を比較するがよい。信仰の弱いものは「信仰」について、恐のあるものは「恐るゝ勿れ」

の句を研究するがよい。此様にして、研究すると、人に教へられるよりは、十倍も益がある。

三、傳記的聖書を研究すること アブラハム、モーセ、ダビデ、キリスト、パウロ 其他何十の聖書的人物は頗る面白い材料を供給するのである。これらの人々を面白く研究するならば犠牲的精神を鼓吹される。

四、聖書を本分的に研究すること 是より以上、智的に、靈的に益あるものはない。六十分分は實に我々の生涯に一つ一つ當て符まる様に書いてあるのである。靈的命を深くし御用に立つ様に準備するには、左の心得にて讀まねばならぬ。

- (い) 一生懸命に……
- (ろ) 祈りつゝ……
- (は) 味ひ乍ら……
- (に) 信じて……

(ほ) 從順に……

練習問題

- 教師の聖書研究をなすべき二つの理由を問ふ。
- 聖書研究によつて教師は如何なる益を受くるや。
- 聖書研究によつて生徒は如何なる利益を受くるや。
- 聖書研究の有益なる四方法を擧げよ。
- 聖書の通讀とは何のことか。
- 論旨的聖書研究は如何なる利益ありや。
- 傳記的研究には如何なる利益ありや。
- 聖書研究の五つの簡單なる規則を擧げよ。

教師の研究

五、 後顧に	四、 信じて	三、 味ひ乍ら	二、 祈りつゝ	一、 精出して
四、 分本的	三、 傳記的	二、 論旨的	一、 通讀	
二、 生徒の爲の研究	一、 心算の修養としての研究	教師と教科書		

第三課

教師と生徒

二つのバイオリンを一つびとつ放して引くと美しい音が各出る、然し二つを合してひくと調子が合はぬ、節が違つて居るからである。その通り教師と生徒の間にも調

和がとれなければ、その生命と進歩の美音調を發しない、この調和を取る爲めに四つの事が肝心である。

一、眞摯 子供は人の性格を判断するに誠に妙を得て居るもので、或知らない人と友達になるかと思へば、又或人は嫌ふ。故に教師としての一番よい推薦状は子供に好かれると云ふことである。子供には偽善の仕方はすぐ看破され、すぐ攻撃される。日曜日に三十分位の教へたとて、教師に貫目がなく、その前一週間にしたことが教師らしくなければ、それは何の役にも立たぬ。教へることの教師の胸に湧いてくる深さで、生徒の頭に這入る深さはもうわかつて居る。

二、同情 は眞面目と双兒である。成功ある教師は子供の小さい胸に這入つて行かなければならぬ。子供の一家を思つてやることは子供だけに盡すよりきゝめが多い。子供の母に示す僅の好意又僅の助や親切、それでなくてもその家で食事すると云ふ様なことが、子供と教師の心を結びつけるに有力な鎖となるものである。教師はかうして

悪少年と云はれるものが、己が力と統率力を適當な處に使はんと待つて居るタルソのサウロであることを發見するのである。又我等はイエスがベタニヤの一家を屢々訪問せられたことを學ばねばならぬ。

三、善のお手本 子供は見たことの眞似をする、子供が學校遊びをして居ることを見ればよくわかることであるが、彼等は知らず識らず先生の身振や口吻まで眞似をして居るのである。「先生の様に生徒が似るのである」また行ひの方では、日曜學校の先生は正義、善、公平、名譽、其他の諸徳に於て子供のお手本となつて居るのである。「先生がさうして居られる、そう云はれる」と子供はいつも先生の行ひで自分の行ひを辯護して居るのである。だから教師にして、もしその生徒を、善い方に導かうと思へばどうしても先づ自分から進んで行はなければならぬ。

四 教場の注意深き管理 教場の不整頓なところを矯正し、愉快に教授しやうとするには四つのことを心懸けねばならぬ。

(い) 教師はよく準備して行かねばならぬ 準備の疎かな教師はすぐ子供の注意を失ふ。生徒はそれと氣がついてももう先生を尊敬しなくなる。

(ろ) 生徒を信用すること 教師が彼を信用して居ると云ふことを知らせねばならぬ、彼に善事を期待するならば、彼は善事をする勇氣が出来るのである。

(は) 平靜に確固に やつて行くのは、やりつばなしで置いてすぐ手厳しくするより、小供の愛を得るのである、平靜は平靜に映じ、平穩は平穩を作るものである。

(に) 積極的訓練は消極的のものより善い 一度の「せよ」と云ふ言葉は十度の「すな」と云ふ言葉よりよい、悪いことをやめよと云ふより、善い事の方に氣をつけさせる方が遙に賢い、精を出す場合には之を賞め又折々は褒美をやるが善い、然し褒美が欲しさにする様な事は決して許してはならない、兎に角教師は頭に深くこの名言を刻んで置くがよい。

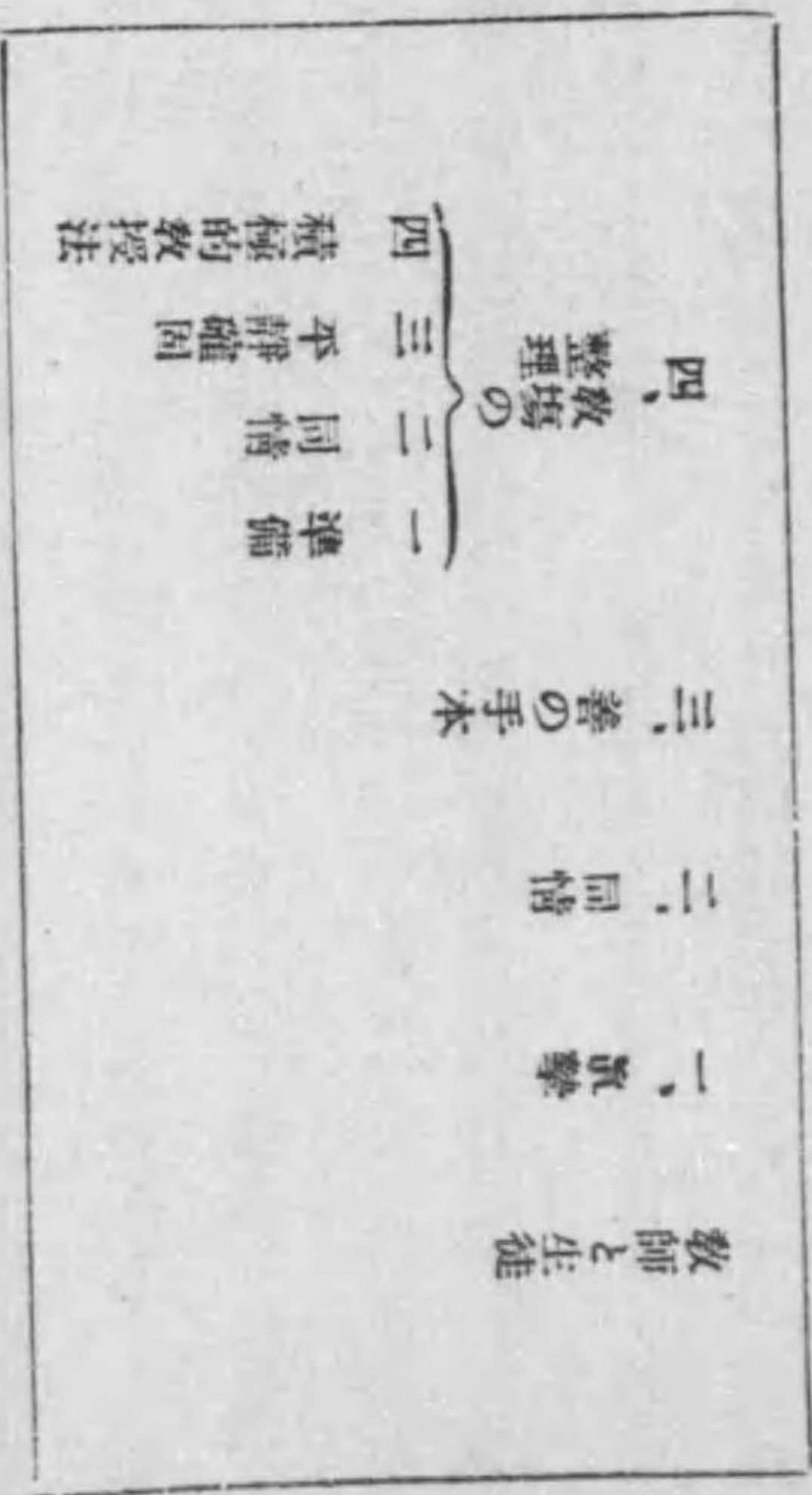
日曜學校教授法

悪いことには 目をつけな、
 さがせばいくらも あるなれど、
 善いこと探せ 福さがせ、
 さがせばいつでも あるなれば、
 鏡に向いて笑めば 笑ふ姿が待つてゐる。

練習問題

教師と生徒の間の調和は何故必要なるか。
 生徒の生涯に感化を與ふる日曜學校教師としての二つの性質を擧げよ。
 教師の眞摯は如何なる價値ありや。
 同情は教師の事業を如何に助くるや。
 何故教師は正義の高き標準を持つ必要ありや。
 教壇の不整頓を正すには如何にすべきや。
 何故消極的訓練より積極的訓練を施すべきか。

黑板上の梗概



第四課

教師の人格的準備

「善き生活の一にぎりば學問の一束に價す」
 ショーパ・ヘルベルト
 子供の性格に最も大なる感化を與へんとするには人格の修養に缺くる處があつては

ならぬ。

一、生理的準備 疲れた時には、熱心なところはなくなり、怒りぼくなるものである。王の爲めに働くには最も勝れた體格が入用である。だから腦を冷靜にするために、安息を必要とし、いつも樂天的で喜んで居る爲めにはよき消化が必用である。氣をつけて、淡泊とした風體をして居ることは教授するに當つて助けになる。穢ない風をしたり、人目につく様な帽子や衣服をきて居る爲めに教授をだいなしにすることはよくあることである。笑たつぷりのハキ／＼した聲、また快活な態度、要するに勝利を意味して居るのである。

二、智識的準備 教師には兒童を知るの智識、教授法や聖書の智識が要る。これがあつて初めてその時その時に應じて旨く、教へることが出来るのである。教へることに關係のあることを研究したり、また時事問題を知つて居るといつも新しいいろいろな例を用ゆることが出来る。こう云ふ風にしないと、生徒はすきな餌を漁らうと外の牧

場へ迷ふて行くのが常である。修養が肝腎である、「先生になる人は生れつきから違ふ」と多くの人は云ふ、ある程度まで事實だ、教へたくない人は、子供が嫌で、辛捧もなければ、趣味も感じない、調度盲人が視覺を得やうとして居る様なもので、どんなことがあつても先生にはなれない。然し子供がすきでまた教へてやりたいと思つて居る人は、知らず／＼教授法なんか呑み込んでしまふ、それで良教師になれる。兩々相待つたものゝ上にまた、修養するならば、更に好結果を得ることは受合である。

参考書は萬能じやない、聖書の研究と、祈と、生徒の智識と其組に當筈つたやりかたによつて初めて好果を得るのである、無學な漁師を、熱烈な福音の使者と改造し給し神は、もし唯我等が熱心でありさへすれば、必ず、同じことを我等になし給ふのである。

三、心靈的準備 之が一番大切である。たとへ我諸の人の言葉及び天の使の言葉を語ることも、もし愛なくば鳴る鐘や響く鉞の如し。(コリント前十三) 教授の根本的動機

は純粹でなくてはならぬ、教師がその仕事に取りかゝるに當り、その務めの喜びと、人を新生に導く熱望がなければ、それは全然失敗である、無學な人でも靈的の人は随分教室をよく整理して行く。

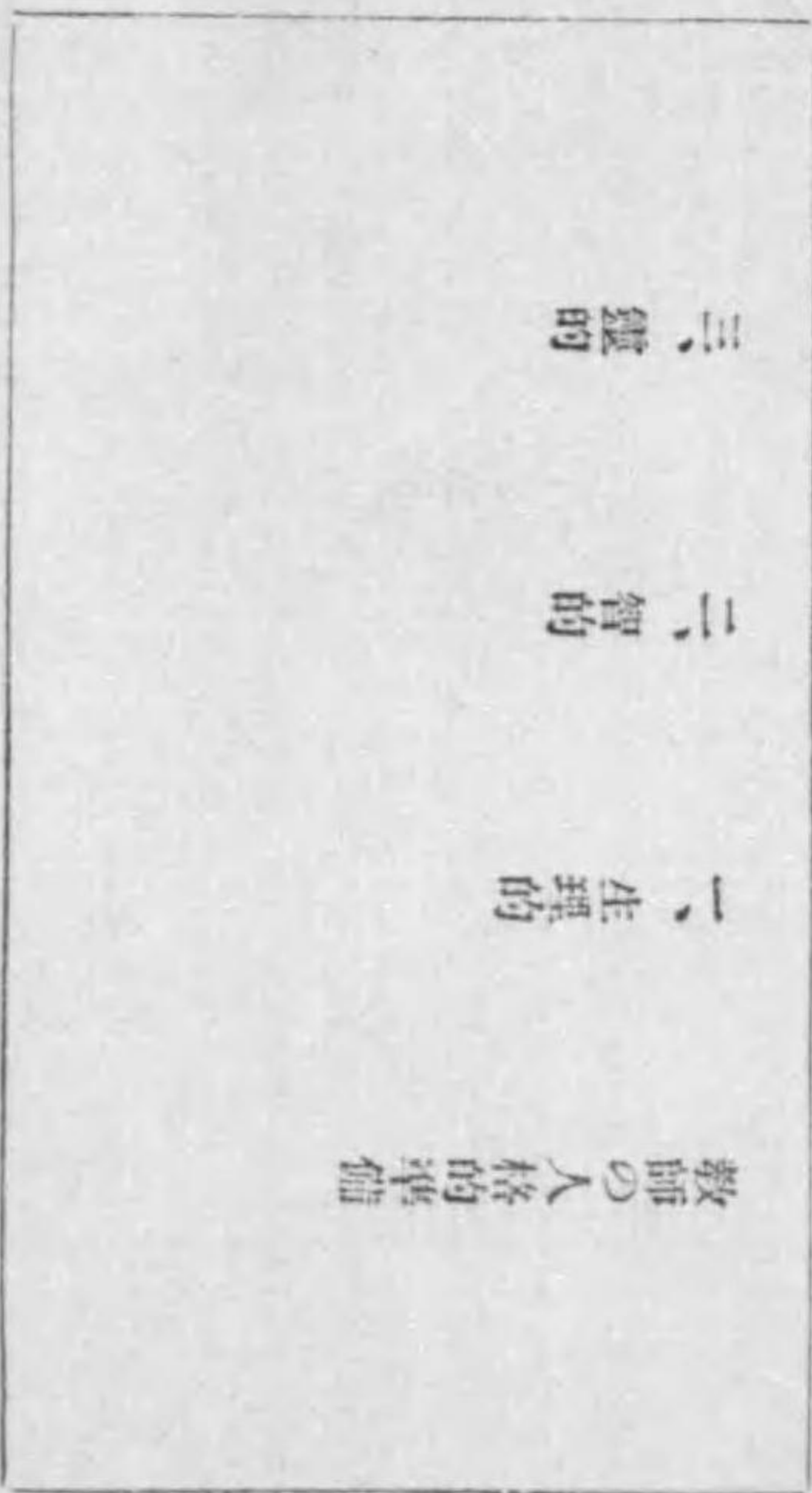
此の力は唯一つの方法によつて得られる 我等の友は何人であるかを先づ顧みねばならぬ、日に神と共に歩み又靜に語り、その日／＼の靈的糧を得るために御言葉を研究せねばならぬ、管理法が巧であるからとて、それが靈的に缺乏して居る所を補ひ得るものでもない、神は備のない、穢い器に靈的力をお充しにはならない、悶えつゝ、祈る其夜は、生徒の一生涯に及ぼす感化の一部分である、然しまた犠牲はいつも喜びを刈り取ることを記憶せねばならぬ、實に或魂を神に引き合せたと云ふことは最大幸福の中最大の幸福であると云はねばならぬ。詩二二六五六

お倉にごつさり つみたくば。
涙をもつて 種を蒔き。

うねからうねに 水注ぎ。
それから黄金の 垂穂かれ！

練習問題

教師は如何なる生理的準備を要するか。
如何なる智的準備を要するか。
教師は先天性なりとは如何なる意味なりや。
日曜學校教師に如何なる二特質を要するか。
日曜學校を教授するに最も大切な準備は何ぞ。
日曜學校教師たるの動機は何なる可きか。
如何にせば靈的となり得るや。



第五課

教授上の諸法則

橋、トンネル、鐵道を建設せんとするものは、それを組立てる前に基礎となる法則

を研究せねばならぬ。それと同様で、性格の建設者である教師は尙更性格を作るが爲めにその法則を知らねばならぬ、それには三つの基本的法則がある。

一、**智識は論理的に四階段を経て進むものである**。先づ智識は五官によつて、精神に達する。即ちその五官とは目耳鼻舌觸覚である。是等を通して我等は感覺と云ふものを持つて居るのであるが、感覺より智識になるまでに四階段あるのである。

(い) **知覚** 外界の一現象が一感官を通して刺激するとそこで一つの感覺が起る、すると此感覺が、脳に達し「それは何だ」と云ふことがわかる、之を知覚と云ふ、たとへば、音を聞く、神經によつてそれはヴァイオリンの音であると悟る、即ち之はヴァイオリンの知覚である、猶又外の感官を以つて、ヴァイオリンに觸るとか、見るとかすると、その直覺は一層明瞭になるのである。

(ろ) **概念** 種々な直覺が集つて、そこに一つ以上の一般的な性質が浮んでくるが、我々は之を概念と呼ぶのである。たとへば、ピアノ、ヴァイオリン、笛と云ふ様なも

のを聞いて茲に音楽と云ふ一般的の考へ即ち概念を得るのである。

(は) 判断 種々な概念や直覺を比較してゐる中に判断と云ふものが出来る。我々は薔薇と云ふ直覺を持つて居ると同時に、花と云ふ概念を持つて居る、それで此二つを比較して薔薇は花であると云ふ判断に達するのである。

(に) 理性 判断を比較して理性と云ふものが出来る、イエスは盲人の目を開き、癩瘋を癒し、癩病を癒し、寡婦の息子を甦らせ給ふたと云ふことを知つて、イエスは「悲しめるものを助くる人である」と知るのである。判断と理性は元來知覺の多少と正確なることによつて得られるものであるから、日曜学校の教師は出来るだけ多くの感官を使はすことが肝心である、言葉と音楽を以つて、耳に繪畫、黒板、地圖を以つて、目に模型と宿題によつて、手にまたその外の種々な手段を以つて他の感官に訴へるのが善いのである。

二、智識は自分ですることによつて得られる 足を使はずいつも車にのる子供は虚

弱である、太郎の運動してゐるのは二郎の筋肉の發達にはならない、精神の發育も之と同様である、いくら一生懸命に先生がやつて居つても、それで生徒が豪くはならない、先生の先生たるところは生徒にさすことである、生徒が教へられたことを考へ直す位でなければ、先生の説明は無駄である、だから教師は常に生徒の頭を刺激して疑問を起させなければならぬ、イエスはそうせられた。(約四一六二) 飢渴を覚えさへすればもう飲み方の講義なんかするのは野暮である、又生徒をして學修したことを口で云ひ現すことが出来る迄了解させねばならぬ。

三、智識は了解され又使用されなければ消失する 新智識はいつも心的要素の一部とならねばならぬ、それはお膳についてゐる肉が、我々の血となると變りはない、而して其が次のものに對して、精神的にまた靈的に我等を確固なものとなし得るのである、また我々は新智識を採用するに當つて、常に「何處がよい、何の役に立つ？」と云ふことを研究せねばならぬ、智識はまた日々使はなければ自分のものとはならないので、我

我は行に現はすによつて知るのである、イエスが云はれたことがある、「凡て我言をきゝて行ふ者を智者に譬へん」と、太七三〇 斯くして學んだ眞理は、記憶に残り智識を活し、心を燃し、品性を形造り、一生を全く改造するのである。

練習問題

如何なる三つの基本的法則を記憶すべきか。

智識は如何にして精神に達するか。

知覚とは何ぞや。

概念は如何にして形造らるゝや。

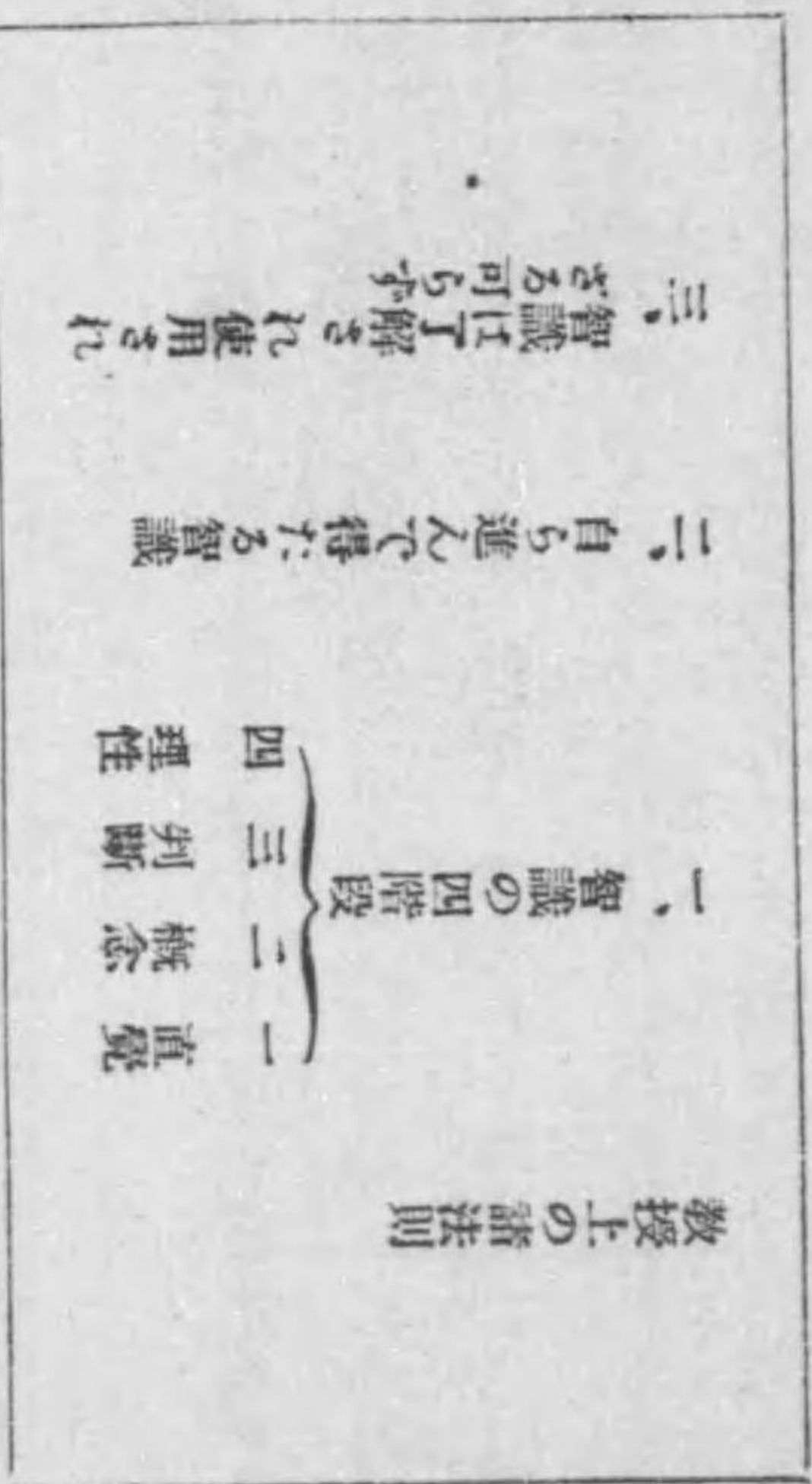
判断は如何にして生ずるや。

理性の作用とは何ぞや。

智識は如何にして得らるゝや。

新智識は如何に利用すべきか。

黑板上の梗概



第六課

教授法

法則は大切なものであるが、教授法は此法則を特別なる學課に應用するものである

る。誰が大人の衣服を直しめせずに子供に着せるであらうか、もしそんなものを着て居る子供があれば、それは衣服が悪いのではなく、着せる人が悪いことは勿論で、此衣服も着るべき人が着ればよいのである。之と同じで、學課なり、生徒なりに持つて行つて教授法を適用するのと同じことである、一方法で成功したものも、他の方法では失敗であるかも知れない、一番よいのは方法の凡てを混用することであるが、その方法に四つある。

一、暗誦法 之は家で聖書か教科書かに依つて其日の課業を讀んで来て居るものと假定してのやりかただ、教師は生徒の知つてゐることを順次に尋ねて、初めから終りまで難問をかけて居ればよいのである、之が一番劣れる教授法で、少しも勉強しなくてよいから、情け者の先生には最も樂な方法である、然し責任ある生徒は勉強してくるので、聖書もよく知つてゐるが授業時間はあまり益を與へない。

二、講演体 此方法は小さい子にはお話の形で、大人には説明又は學課の適用を以てするのであるが、教師次第で成功もすれば失敗もする、大人の組では成功する方である、上手な人が之を用ゆると日曜學校に大人が殖える、然かし此方法の弱點は、教師の方では教へこむと云ふことをせず、又生徒の方では聞き流して居ればよいと云ふことである。

三、問答体 希臘の大哲ソクラテスが成功した方法で、ソクラテスはいつも生徒に質問を發して、その知らぬ處を教へて之を悟らせ、自ら研究せんとする趣味を起さしめた、元來質問には五つの利益がある。

(い) 趣味を引き起す 之は學課を始める時に用ゆればよい、イエスは祭司や學者の質問にいつも頭から質問を以つて答へられた、税金に就て質問を受けられた時には、何の像がついて居るかと問はれ、(路廿四二) 又教師に答へられては「汝未だ讀まざるか」と初めから質問せられて居る。

(ろ) 教師に接觸點を教へる 教師は新しく教へることを結びつける爲めに、生徒の

頭腦の様子を探らねばならぬ。

(は) 生徒の知識を知る 教へたことが頭に這入つて居るか否かを知るには質問より外に道はない。(太十三五二、十六九一二)

(に) 生徒の思想を刺激す よき質問は生徒をして考へさす、下手な質問は、答まで云つてしまふ、下手な質問と云へばこんなのが下手な質問と云ふのである。

イエスは水を酒に變へたか。

僕はイエスの云ふ如くせよと命ぜられたか。

然し之を生徒をして考へさす様にしたいならば、

イエスはそこで如何なる奇蹟を行ふたか。

マリヤは僕に何と命じたか。

少しも準備をして來ない先生は續け様に喋る、少し準備をして來た先生は、質問ばかりする、善く準備して來た先生は、逆に生徒の方から質問する様に生徒の思想を刺激

する。

(ほ) 決定に導く イエスが三度「汝我を愛するや」(約二二五)とペテロに質問せられた時の如く、また「汝我を云ひて誰となすか」と問ひ給ひし場合(太十五十六)の如く、決定に導くものである。

四、特種研究体 少年には向かないが、智識の揃ふた大人の組に適する方法である。

學生は人物、或は地理等の問題を出される、するとそれを自宅で書いて、教場へ持つて行くのである。それで教師は是等の論文を完全なものに纏めなければならぬ。効果はたい論文を書いて來たと云ふに止らずして、趣味を感じた學生が、自分の責任を重じて、研究して來ると云ふことにもなるのである、併し、家庭で準備させる困難に向つては、次の様な方法を以つて應ずるがよい。

- (い) 生徒各自に適する様な問題を出さねばならぬ。
- (ろ) 責任を感じさせねばならぬ、之は教師次第である。

(は) 充分なる指導をなし、研究すべきところを明かにせよ、成功の秘訣は問題を限つて與へるにある。

(に) 宿題の出来ることを當てにせよ、出来たものはどんな小さなものも認めて之を採用せよ。

練習問題

方法と法則の差を問ふ。

四つの教授法とは何々なりや。

暗誦体とは何ぞや。

講演体の缺點をあげよ。

ソクラテスは何の爲めに問答体を用ゐしや。

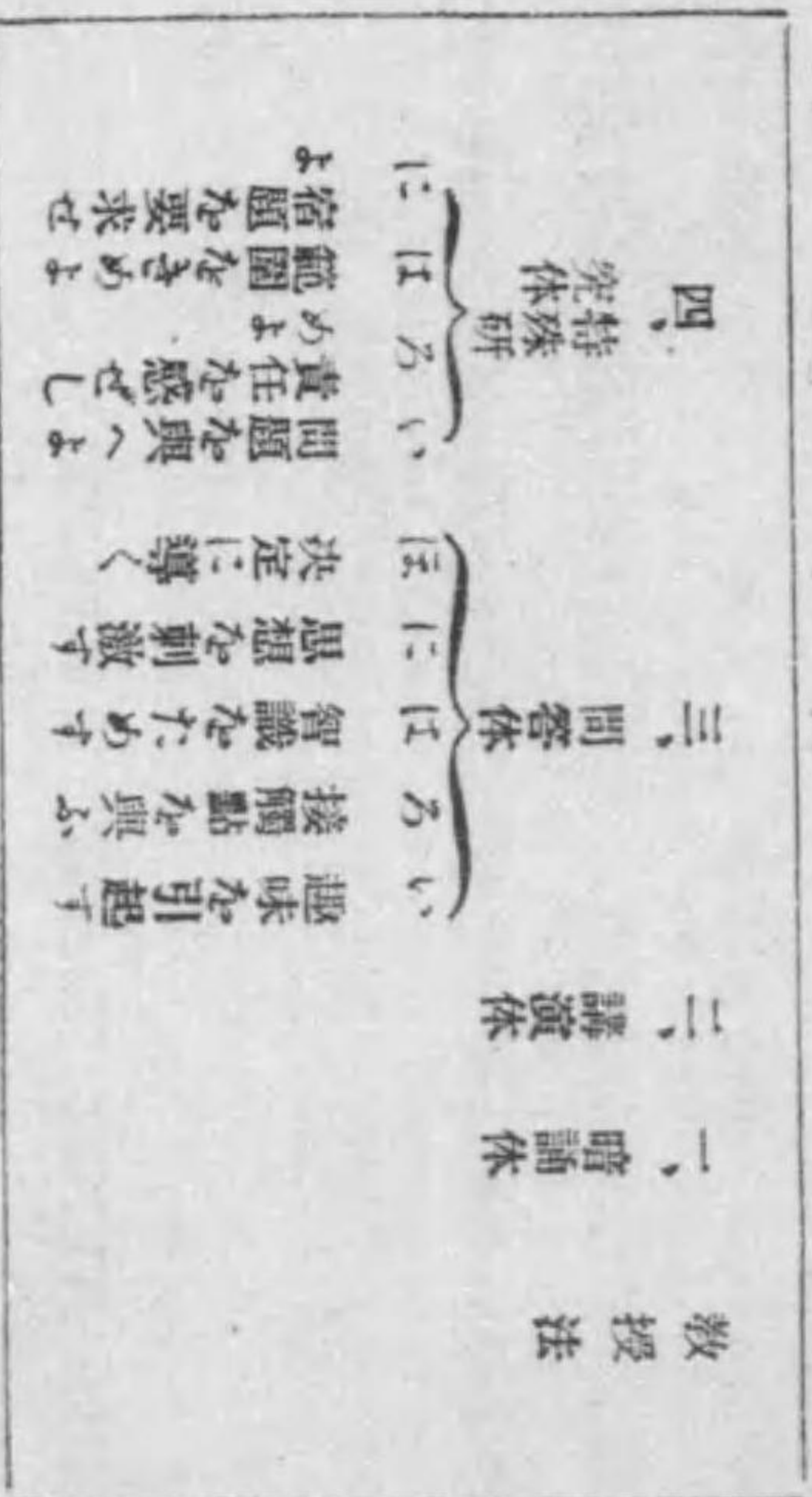
問答体の利益五つを挙げよ。

情けた教師は何法を用ゐる、少し準備せし教師は何法、よく準備せる教師は何法を用ゆるか。

特殊研究体とは何ぞや。

宿題を與ふる場合の四つの注意をあげよ。

黑板上の梗概



第七課

學課の準備

「教師よ知れ、汝は嘗て小供の與へられたる最も善き教師なるを」——監督サインセント——

教師の研究

教師はその日の學課に敬虔と責任を以つて臨まねばならぬ、その時こそ彼に取ての好機會である。そして其事柄は長い間訓練を受けた官立學校の教師のすることより遙に眞面目で困難な問題である、眞面目と云ふは目前に大事件が横るからである、困難と云ふは時間と設備と權威の足りないことである、目と目と、心と心とを以つて教師は世俗的な大勢力に面し、眞實なる幸福の種を蒔く爲めに、彼等を征服し、長き間彼等を支配せねばならぬのである。

一、早く始めよ 日曜日の午後、教師は次の日曜の學課を讀んでおけ、そうすればよく學課を呑み込むことが出来る、さすれば云はんどすることが溢れてくるのである。

二、學課の聖句と似た句を研究せよ 引照の聖句を抜き、聖書辭典を用ゐ、人物、習慣、地理等について出来るだけ研究せよ、學課の参考になるべきものを集めよ、大切な事を書きつけて置き、導かる、様に祈れ。

三、種々なる材料を集めよ 事件、談話、繪畫、參考書、説明等を新聞より、雜誌より、

個人の經驗より、自然界より、手當り次第に之を求めよ、學課をいつも頭において氣をつけて居りさへすれば、材料はすぐ集まる、材料が集れば、それからは選りわけて整理することが肝腎である。

四、前の學課の復習 生徒が、お話や、教はつたことを思ひ出して、充分答へ得るならば、教師はそれで非常に勵まされるものである、生徒はそれだけの知りになつたのである、然しもう一度それが口で云へるならば、もう頭から消すことの出来ない程ハッキリ這入り、その眞理を味ふのである。

五、纏つた眞理を選べ 次の學課を生徒の現狀に當て箝めるには纏つた眞理を選ばなければならぬ、課業時間に、唯課業を終るまですると云ふばかりでなく、充分く、りをつけておかねばならぬ、處が、生徒の注意が、種々な筋道の通つて居らない眞理に亂されると、それは全く失敗である、ごんな話でも歌でも例として眞理を教へこむには助となる、然し學課を當なしに教へると、其結果は例へば「針さし」の様なものになる。

跡がついては居るが、まア跡と云へば跡だ位ののである、はつきりしたことは何にも残らない、つまりその授業は全然失敗である。

六、學課を教ふる緒口を準備せよ 之は晝とか、譬とか、質問とかを用ゐるがよい。が、何によらず、緒論は凡て學課の眞理に關係のあるもので、注意を喚起さすものでなければいかぬ、例へば「アナニヤとサツピラ」の學課だとすると、銀貨とそれに似た偽せものを二つ持ち出す、二つとも似て居る、それを机の上で鳴らして見せる、それですぐその眞價がわかる、かうして生徒の注意を引くと、それを緒口として、初代教會に於ける偽信者と眞信者との就ての學課を教へるのである。

又質問は興味を喚起させて接觸點を作るものである。例へば「捕鼠器で鼠を捕つたことがありますか、どんな餌をつきましたか、なせ、それでは人間を捕る機械を見たことがありますか」と云ふ風に初めて、それからあかあかした光や、樂器の音も聞えて、そして好みの御馳走の出る酒場の罪惡を教へればよいのである。

七、眞理を出来るだけ生徒の知つて居る處に持つて行く バレステンの大きさとか、又はその氣候を説明するにしても、己の國と比較するのがよいのである、今日の風俗制度を聖書時代のそれと比較するがよい、中學校以上の男女子には、普通の歴史文學科學と關聯して、話するがよい、また大人は大人で、社會的政治的或は制度の方から説き始めるがよい。

八、生徒に實行として現はさしめる様に教授せよ それでなければ、その授業は完全なものど云ふとは出来ない、生徒に善良な撰擇、新しき徳の修養、またなすべき新しき奉仕などをさすがよい、と云つたところで、一課一課の終に結果が見え無いからと云つて、失望する必要はない、深く決心したことも出来るだけ隠さうとすることもまたあることである、また或時にこんなこともあつた、或生徒が、或日先生から、基督に對して決心せよと勧められ、決心者の名をしるす様にと與へられた紙片を、受け取ることは受け取つたが、すぐそれを引裂いたのである、然しその次の週には、彼も決

心して、紙片に署名したと云ふことである、種を蒔くは實に我等の務めである、然し收穫は主の御自由である。

練習問題

何故官立學校の教師のよりは日曜學校教師の問題が眞摯にして困難なりや。
 學課の準備の八階段を擧げよ。
 教師は何故早くより準備すべきか。
 第一に準備すべきことは何ぞや。
 何故教師は前の學課を復習すべきか。
 如何なる材料を集むべきか。
 肝腎なる眞理のみ引抜くは何故大切なりや。
 如何にせば學課の有功なる緒口を見出し得るや。
 如何にせば生徒の知れることに眞理を結びつけ得るや。
 教授の結果は如何になすべきや。

黑板上の梗概

- | | |
|----|-------------|
| 八、 | 生徒の實行に現はせよ |
| 七、 | 生徒の智識と關係をいつ |
| 六、 | 緒口を準備せよ |
| 五、 | 單純なる眞理 |
| 四、 | 復習 |
| 三、 | 材料の種々 |
| 二、 | 學課の要旨を研究せよ |
| 一、 | 早く始めよ |
| | 教授の準備 |

第八課

學課に使用する例

各種の感官によつて知るときは、印象が深くなることを心得て、教師は畫とか黑板とか

を用ゐて、目に訴へなければならぬ、白墨の畫は面倒がなくつて面白い、顔や形を書くといけない、然しなんにもそんなものを書かなくても善い、小供は想像力が強いから一本の筋でも人に見える、笑はず様な畫は學課に對する氣を奪つて教場を亂す、入用のことだけ兒童の腦髓に印象する様に、凡ての例は注意せねばならぬ、觸感に訴へるのは、手によつてするのであるが、切り抜きを貼つたり、讚美歌を飾つたり、地圖に色を塗つたりするは非常によい、然し畫や手工よりも、お話の方がよいこともある、話の上手な先生は、よい道具を持つて居ると云つてよい、話には三通りある。

- 一、學課により付く緒論の話。
 - 二、眞理を捕へさす爲めの話。
 - 三、學課の話そのもの。
- 平常三つを一緒に用ゆることは決してない。話の價値は殆ど計ることが出来ない。
- 一、話は秩序と注意を助ける。

二、話は小供の世界を廣める。

三、話は物を現實化する。

成功ある話は、

一、聴衆の経験に訴へる處がなければならぬ 幼兒に話するには、其子に似た様な子供の話をせよ。亦少年には少年向に。新しいことを話するには生徒の知つてゐることに關係をつけて話せよ。

二、聴衆の年齢に従ふ 五歳位の小供は一度きいたものを何度でも聞きたがる。十歳位の子供は同じ話を二度すると「聞いた聞いた」と云つて、外の話聞いたがる。五歳の子には一つの話を通しても矢張り初めと同じ様に一言一句違はず話せぬと怒る。

三、情緒に訴へよ 實行に現はさすためにはそうせねばならぬ。力を入れて繰り返すことは屢々眞理を深く印象するものである。湖邊にイエスがベテロと物語られた時

「汝我を愛するや」「汝は我が汝を愛することを知る」と繰り返された事によつて猶意味が深くなつた。

學課の話は如何に準備すべきか。

一、先づ知れ。

二、材料を分類せよ。

三、人物風景事實に注意せよ。

四、肉眼で見るやうに心の目で次々の光景を見よ。

五、最も面白い所を終りに持つて行け。

聽衆の進歩は使用すべき話の種類を決定する。

一、幼兒には 家庭のことしか知らないから、小供、お母さん、鳥、獸、花、星の話させよ。

二、小兒には 想像力が勝れて居るから、もう少し面白い話させねばならぬ。サム

エルの幼時や、イエスの幼時の話等をするのがよい。

三、青年には 理想的のもの即ち英雄談とか冒険談とかが適當する、故にヨセフやパウロやイエスの話がよい。

四、大人で 自ら修養し、未來の事に就て考へて居るものには、困苦誘惑、或は犧牲の話がよい。

練習問題

教師は如何に視覚に訴ふべきか。

觸覚は如何に使用せしむべきか。

話の三種を挙げよ。

成功ある話の三要素を云へ。

學課に用ゆる話を準備するの五階段を問ふ。

尋常科には如何なる話がよきや。

青年には如何なる話がよきや。

壯年には如何なる話がよきや。

黑板上の梗概

成功ある語 1. 經驗に訴ふる 11. 職業に關する 11. 職業に關する	語の價值 1. 秩序と注意 11. 世界を廣くす 11. 現實化	教授に用ゆる例 語の種類 1. 議論的 11. 説明的 11. 職業そのもの
--	---	--

第九課

教師の責任

或る希臘の徒歩競走に火のついた炬火を次の人へ次の人へと送つて行く遊びがあ

る。日曜學校の教師は調度そんなものである。貫つた火を次の人に移すのが役目である。價なしに貰つたから、價なしに與へなければならぬ。實に彼は神より召されて高き責任ある務にあるものである。哥前十二八

彼は最も重大なる眞理を人に教へる爲めに選ばれたのである。福音の使者と同じく不滅なる魂の羊飼である。彼は聖き召に應じてその事業を成就する爲めに、その愛と材能と犠牲を拂ふことを誓つたのである。報は勿論ある。神は汝の愛の働きを忘るゝ様な、無慈悲なるものではない。「老練なる園丁は樹の根の周圍を掘つて、肥料を施し自分は林檎を掘つてゐるのだと云つてゐたが、果して澤山の實が生つて其報を得た。之と同じく、小供の胸のぐるりを掘り雜草を除き、靈的肥料を與ふる教師は、必ず大なる收穫を得るのである。

一、生徒に對する責任 此責任に應ずる爲めには教師は以下の如き人とならねばならぬ。

- (い) 機智に富まねばならぬ。
- (ろ) 社交的でなければならぬ。
- (は) 勉強せねばならぬ。
- (に) 熱心でなければならぬ。
- (ほ) 靈的であらねばならぬ。

二、學校に對する責任 教師は學校に對して、

- (い) 精勤せねばならぬ。先生がつとめるならば生徒も一層熱心になる。補缺がいらない様に出てくれるならば、校長も喜んで感謝して、學校に盡す精が出る。
 - (ろ) 早く出席せよ。始まる前に生徒と世間話でも出来ない位に時間がつまつて出席する者は大なる機會を失つて居るのである。
 - (は) 熱心又忠實なれ。學校の方では教師に一生懸命でやつてもらふことを要求する。
- 三、主に對する責任 神と偕にある人には拙い働きのある筈がない。我々は主に對し

て好い加減の働きをしてそれですむであらうか、此責任を盡す爲めに我々はまづ

- (い) 純潔な生涯を送らねばならぬ。
- (ろ) 優れたる人格を修養しなければならぬ。
- (は) 神と語らねばならぬ。

特に生徒の爲めに祈り、又主を信じて居る生徒にも組の生徒の爲めに祈つてもらはなければならぬ。知慧と力と靈能を與へらるゝ爲めに祈らねばならぬ。

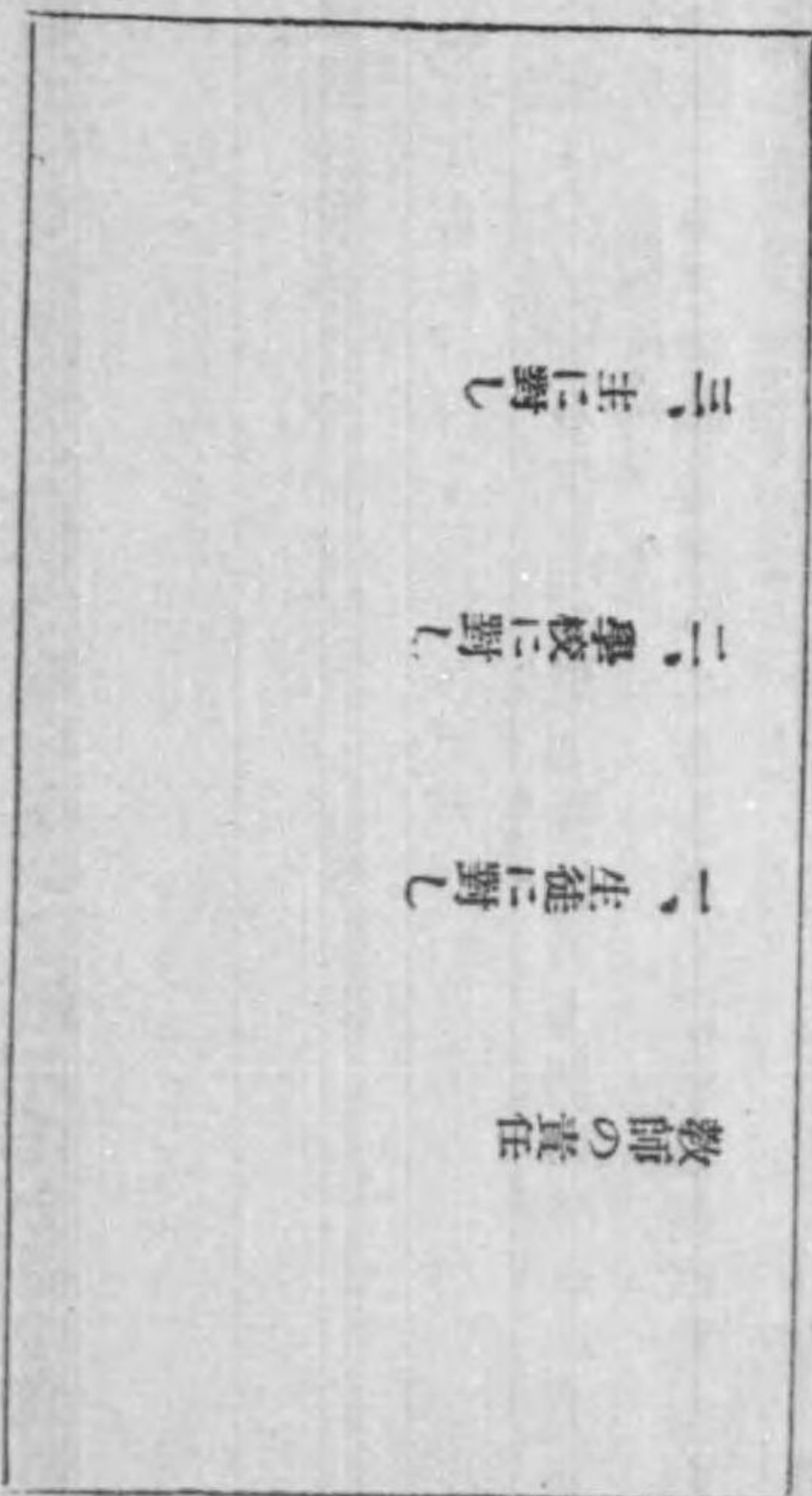
教師の責任は彼が最上の努力を示した時に完いのである。昔、羅馬ではこんな風習があつた。皇帝の石切山から出た石は、一々監督が調べた上、御用に立つものには「御用」と印し、役にたゝぬ質の悪いものとか、仕事に手落ちのあるものには「不用」と印して捨てたそうである。

「汝神に嘉納らるゝ、恥ざる働きの人として自らを示さんが爲めに勉めよ。」

練習問題

神は如何なる大事業に教師を召し給ひしや。
 教師として任命を受けし場合には如何なる誓が含まるや。
 教師は生徒に如何なる責任ありや。
 學校に對する責任は何ぞ。
 主に對する責任は何ぞ。
 何時教師は責任を終るや。

黑板上の梗概



第十課

訓練を受けたる教師の模範校

- 一、靈的空氣 が全校にたいよび、讚美歌は禮拜的となり、聖書朗讀は敬虔的となり、神の御臨在の喜ばしい感じが凡てに現はれてくる。
- 二、教會の各會員 は勿論、嬰兒名簿に在るものから、家庭の組のおぢいさんお婆さんに至るまで、皆日曜學校に關係がある。
- 三、完全なる行政機關 完全なる學校の職員は、各々一定の責任を重じ、其責任に對して自己の能力のありつたけを盡し忠實に働くのである。
- 四、級別 模範校の各組は判然區別があつて、各々特別の設備がある。教授も級別的で、教科書も級別的また補修學課を備へてをる。模範的の日曜學校は、年齢に従つて生徒にふさはしい教授をなし、又永續的の學校として存在する備へを設けて居るので

ある。

五、執行順序 補修學課には、種々な變つたことゝか、傳道、禁酒學課の様なものがある。然し教壇からあまり長く話すのは控へねばならぬ。唯簡単な話を度々するがよい。執行順序は屢々變更して單調を破るやうに努める。

六、特別の日 を特別の方法で守る。クリスマスには式があり、其外「ラレーの日」とか決心日とか、或は大切な事がある場合にはまた特別の式を守る。

七、年中休みなし 授業時間、或は開校時間に多少の變更があつても、學校そのものは年中休みなしである。

八、教師會 教師は、(一)出席すると有益であると云ふのと、(二)忠實の教師は義務の觀念によつて出席する。

九、全教師は訓練を受けてをる 全教師は凡て正當な師範科出身である。師範科の修業證書を持つて居る。又第二の教師の爲めには日曜學校内に永續的の師範科の設が

あつて

十、教職員の就任式 教職員の召を蒙つた此務めは非常に重大なものであるから、定まつた公認式又就任式を擧げる。

十一、模範校は教會内の靈的一大勢力である 教職員、生徒が彼等の生活に於て基督に榮を歸する。その感化を受けて教會が潔められる。

十二、模範校の目的

全生徒を信者とし、

全信者を教師とし、

全教師は訓練されたるもの。

練習問題

模範校の靈的なることは如何にして現はるゝや。

日曜學校教授法

日曜學校には誰が列るや。

職員の適當なることは如何に現はるや。

如何なる級別制度ありや。

執行順序は如何。

如何なる特別の日が守らるや。

開校期間の長さ如何。

何故教師會に出席多きや。

如何なる訓練を教師は要するや。

教職員其職務を執る時頭如何なる式ありや。

教會に學校の興ふる感化如何。

模範校の目的は何ぞ。

黑板上の梗概

- 模範校
- 一、靈的空氣
- 二、全教會員の出席
- 三、完全なる機關
- 四、級別制度
- 五、執行順序
- 六、特別の日
- 七、年中無休
- 八、盛なる教師會
- 九、全教師々絶對出身
- 十、教職員の就任式
- 十一、教會の靈的勢力
- 十二、模範校の目的

日曜學校教授法終

大正四年三月二十二日印刷
大正四年三月二十五日發行

定價金七十五錢

譯者

賀川 豊彦

發行者

東京市京橋區明石町八番地
基督教興文協會代表者
イー、エヌ、ウワーン

印刷者

橫濱市太田町五丁目八十七番地
村岡 平吉

印刷所

東京市京橋區銀座四丁目一番地
福音印刷合資會社東京支店

東京市京橋區
明石町八番地

日本基督教興文協會

發行所
發賣所

警醒社・教文館・福音書店・基督教書類會社



325
350

終

